

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]

acueducto

La revista española en Japón

¥0

GRATIS/第10号

31-agosto-2012

www.acueducto.jp



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

特集

スペイン絵画の巨匠 エル・グレコ

世界の傑作、奇跡の集結! エル・グレコ展

エル・グレコとスペイン

エル・グレコが倉敷にやって来た

東日本大震災復興チャリティイベント

スペインフェア2012 開催レポート

エル・グレコ「白貂の毛皮をまとった貴婦人」
1577-1590年頃
グラスゴー美術館(ボロック・ハウス)、イギリス
©Culture and Sport Glasgow (Museums)

ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第10号をお届け致します



今から4年前の2008年秋、フアン・カルロス1世国王とソフィア王妃が来日され、セルバンテス文化センター東京の公式オープン記念イベントにご臨席された。世界でおよそ70を数えるセンターの中でも、世界最大級のセンターが日本に誕生したのだ。初代館長はビクトル・ウガルテ氏、彼の活躍でセンターは強固な基盤を確立した

といえよう。しかし、これからというときに、ウガルテ館長は8月に東京を去って、別の国のセルバンテス文化センターの館長に就任するという。残念至極であるが、当地での氏の活躍に期待したい。

2013年6月から2014年7月までの一年間、日本では「スペイン年」、スペインでは「日本年」となり、両国で多彩な記念行事が予定されている。京都外国語大学スペイン語学科も設立から50年目の節目の年を

迎える。また2013年は支倉常長率いる慶長遣欧使節が仙台を立てて400年の記念の年でもある。同使節関連のシンポジウムと展示会などスペインと日本の交流史に新しい1ページを加える記念行事を、多くのスペインファンとともに開催できればこれ以上の喜びはないだろう。

スペイン年を来年に控えた今年秋、大阪にエル・グレコが上陸する。それを記念に、今号の特集は「エル・グレコ」です。関西いや西日本の多くの方々がエル・グレコの傑作を堪能されることを祈っています。

坂東省次

坂東省次 ばんどうしょうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。

京都セルバンテス懇話会代表。

専攻はスペイン語学、日西交流史。

近著に『スペインを訪れた作家たち』（沖積舎）がある。

Les ofrecemos el número 10 de la revista ACUEDUCTO

Hace cuatro años, en el otoño del 2008, visitaron Japón Sus Majestades los Reyes de España y estuvieron presentes en el acto de inauguración del Instituto Cervantes de Tokio. Hasta entonces ya se habían establecido cerca de setenta centros en numerosos países y en Tokio se instauró una de las sedes más grandes del mundo. Su primer director es D. Víctor Ugarte y gracias a la gran cantidad de actividades desplegadas por él, el Instituto Cervantes de Tokio ha establecido una base muy firme. Ahora el Sr. Ugarte, sin embargo, se ve obligado a dejar Japón y trasladarse a otro país para encargarse del centro de su nuevo destino. Sinceramente nos resulta una auténtica lástima, pero deseamos de corazón que tenga suerte en su nuevo trabajo.

Desde junio de 2013 hasta julio de 2014, en Japón vivimos el *Año de España* y en España se celebra el *Año de Japón*. En ambos países van a tener lugar diversos actos conmemorativos. El Departamento

de Estudios Hispánicos de la Universidad de Estudios Extranjeros de Kioto, asimismo, cumple el 50º aniversario de su fundación. En 2013 también coincide el cuarto centenario de la legación de jóvenes, enviada a Europa desde Sendai en la época de Keicho y capitaneada por Tsunenaga Hasekura. Sería un gran placer patrocinar algún acto conmemorativo que contribuyera al estudio de la historia de las relaciones hispano-japonesas, como un simposio o exposición acerca de esta efeméride.

Este otoño, a la espera del *Año de España*, arriban al puerto de Osaka los cuadros de El Greco. Aprovechando la celebración de esta exposición, el presente número de Acueducto está dedicado especialmente a dicho pintor. Esperamos que muchos hispanófilos de Kansai o del Japón occidental disfruten de las obras maestras de El Greco.

Shoji Bando

Director de ACUEDUCTO

スペイン・バスク料理会

美食の街として知られるサン・セバスティアン出身の講師が、家庭でも簡単に作れる料理を伝授します。

【メニュー】バスク風チキン (Pollo a la vasca)
魚介のフィデウア (Fideua de marisco)
レチェ・フリータ・スペイン風揚げ菓子 (Leche frita)

【日時】2012年11月4日 (日) 11時～15時半

【場所】クレオ大阪西 クラフト調理室

【参加費】4,000円

【持ち物】エプロン、三角巾、ふきん

【アクセス】JR環状線・阪神なんば線「西九条」駅下車、徒歩3分
大阪市此花区西九条6丁目1番20号

【お申込方法】10月27日 (土) までに参加費とあわせてお申込下さい。

*参加人数に限りがありますので、定員になり次第締め切りとなります。

【お問合せ】有限会社ADELANTE TEL: 06-6346-5554



ESPECIAL 特集	5
■ スペイン絵画の巨匠 エル・グレコ 世界の傑作、奇跡の集結! エル・グレコ展 エル・グレコとスペイン エル・グレコが倉敷にやって来た 東日本大震災復興チャリティイベント スペインフェア2012 開催レポート	
GASTRONOMÍA グルメ	18
■ ガストロノミーの新世界・旧世界	
VIAJE 旅	22
■ エコ・エスパーニャ(その1)「小さな村の大きな試み」	
ESPAÑOL スペイン語	27
■ スペイン語講座(X) 比較構文の様々な用法について はじめてのスペイン語講座 第10回 現在分詞について	
VARIOS その他	32
■ スペインのお勧めバー/レストラン 第4回 SIDRERÍA AUZMENDI SAGAROTEGIA (シードレリア・アウスメンディ・サガルドテギア) 西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介 RUMBO AL SOL Vol.3 地中海に浮かぶ美しい島〈メノルカ島〉 ESPAÑA FOTO A FOTO - スペイン写真コンクール -	
FÚTBOL サッカー	35
■ ¡CAMPEONES DE EUROPA!	
MÚSICA 音楽	36
■ アンダルシアへ -フラメンコギター留学記・その1- モンボウ 〜響きに魅入られた作曲家〜	
NOVELA 小説	41
■ INOCENCIA PERDIDA	
ENSAYO エッセイ	43
■ マドリッドの夜(10)	
HISTORIA 歴史	44
■ ゲルニカ備忘録——その1 ヘルマン・ケステンの『ゲルニカの子供たち』について	

Colaboradores:



スペイン情報誌acueductoを 無料でお届け致します!

スペイン情報誌acueductoをご自宅まで無料
でお届け致します。ご希望の方は、以下を明
記し、ファックス、郵送、E-mailのいずれかで
お申込みくださいませ

- ① 氏名 ② 電話番号
③ ご住所 ④ 必要部数

【お申込先】

1. 郵送の場合 大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2F 有) ADELANTE
2. ファックスの場合 06-6110-5122
3. E-mailの場合 info@adelante.jp



Avanzamos A1

- Curso de español dirigido a todos aquellos que desean iniciarse en el estudio de la lengua .
- 8 unidades con más de 100 páginas a todo color y **CD incluido**.
- Muy visual y comunicativo abarcando todos los niveles lingüísticos (gramaticales, léxicos, fonéticos y de escritura).
- A lo largo de todo el curso, se ha buscado la participación constante de los estudiantes para que el aprendizaje sea activo.

Unidad 3

Hogar, dulce hogar

En esta unidad estudiamos:

- Expresar existencia de personas y objetos
- Localización de personas y objetos
- Hay - Estar
- Describir un lugar
- Números ordinales



un	armario
una	lámpara
unos	sillones
unos	sillones
dos	camas
tres	mesas
cuatro	cuaderños
quince	libros

Hay	un	libro
Hay	una	toallas
Hay	unos	ordenador
Hay	unas	televisión
Hay	unas	teléfono
Hay	unas	plantas
Hay	unas	sofá
Hay	unas	sillones

3.2. ¿Qué hay en casa de Daniel? Completa con las palabras siguientes:

Armario	Cama	Cocina	Ducha	Fregadero	Horno
Lavabo	Espejo	Mesa	Mesilla de noche	Nevera	Silla
Televisión	Estantería	Sofá	Sillón	Váter	Lámpara



En	el salón	la habitación	el cuarto de baño	la cocina	el garaje
Hay	una televisión				
Hay					
Hay					

日本のスペイン語学習の現状を
考慮した新しいスペイン語テキスト☆
オールカラーCD付!
1,890円(税込)

本書は、初めてスペイン語に触れる方を対象とした入門者向けスペイン語テキストです。個人授業、グループクラスの両方で使用可能。8課から構成され、A1レベルに相当する口答表現、文章読解、聞き取り、読解の4技能伸ばしながら、2セメスター(1年間)かけて学習できるため、大学でのスペイン語の授業にも最適です。カラフルな写真やイラストが多く使われており、スペイン語学習に自然親しむ事ができるよう視覚およびコミュニケーションに重点を置いて作られています。このテキストの終了時には、完璧ではないものの、現在完了を使って過去を表現し、【ir a + 不定詞】を使って未来を表すことが出来るようになります。



【お問合せ・ご注文は】
有限会社ADELANTE
〒530-0001
大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL: 06-6346-5554
FAX: 06-6110-5122
info@adelanteshop.jp

特集

スペイン絵画の巨匠

EL GRECO 〈エル・グレコ〉



「芸術家の自画像」 1595年頃 メトロポリタン美術館、ニューヨーク
©The Metropolitan Museum of Art, Purchase, Joseph Pulitzer Bequest, 1924(24.197.1)

16世紀から17世紀にかけて活躍した、スペインを代表する画家、エル・グレコ(El Greco)。その作品は日本でも非常に人気が高く、スペインを訪れたことのある方なら、一度は彼の作品を目にしたことがあるのではないだろうか。

しかしながら、現在日本国内に存在する彼の作品は、大原美術館(岡山県)に所蔵されている、『受胎告知』と、国立西洋美術館(東京都)にある『十字架のキリスト』という僅かに二点だけ。日本で彼の作品を目にするチャンスはいままで殆どありませんでした。

そんな日本のエル・グレコファンに、彼の作品を一挙に50点以上観ることができるというチャンスが巡ってきました!今年秋に大阪で開催される『エル・グレコ展』では、スペインをはじめ、世界各国で所蔵されている50点以上の作品が一挙に来日する予定です。

日本で開催された彼の作品展の中では最大級の規模で行われる今回の『エル・グレコ展』、大阪での開催後、2013年1月には東京でも予定されています。そこで、本誌acueductoでもエル・グレコを特集テーマに取り上げました。

世界の傑作、奇跡の集結！

エル・グレコ展



スペイン、アメリカ、フランス、イタリア、イギリス、ギリシャ、ハンガリー、デンマーク、台湾……世界中から傑作50点以上、一挙来日
国内史上最大の回顧展 開催!!

2012年秋より、大阪にある国立国際美術館にて、また2013年冬より、東京の東京都美術館にて、没後400年を迎えるスペイン絵画の巨匠、エル・グレコの大会回顧展が開催されます。

EL GRECO <エル・グレコ> (1541~1614) は、16世紀から17世紀にかけてのスペイン美術の黄金時代に活躍し、ベラスケス、ゴヤとともにスペイン三大画家と呼ばれています。エル・グレコ(「ギリシャ人」という意味)の愛称の通り、本名を「ドメニコス・テオトコプーロス」というギリシャ人でした。生地のカリタ島で、キリスト教にまつわる図像を描くイコン画家として画業をスタートさせた後、ヴェネツィア、ローマで西欧絵画の技法を習得。35歳頃にスペインのトレドへに渡り、73歳で没するまでの後半生を同地で過ごし画家として大成しました。

細長くデフォルメされた人体や超自然的な光の効果を特徴とする独自の様式によって、対抗宗教改革のカトリックの熱情と神秘を反映しています。揺らめく炎のように引き伸ばされた人物像が印象的な宗教画や、モデルの人となりをも描き出す独特の肖像画で、当時の宗教関係者や知識人から圧倒的な支持を得ました。死後、急速にその芸術が忘れられたエル・グレコですが、19世紀末にセザンヌやピカソに近代絵画の先駆者として再評価され、現在では西洋美術史上最も偉大な画家の一人として考えられています。

本展では、ブラド美術館やメトロポリタン美術館、ボストン美術館など世界中の名だたる美術館やトレドの教会群から油彩画50点以上が紹介されます。高さ3メートルを超える祭壇画の最高傑作の一つ「無原罪のお宿り」をはじめ、日本初公開作品も数多く含まれます。傑作群が日本に集結する奇跡を、どうぞお見逃しなく!

「無原罪のお宿り」
1607-1613年 サン・ニコラス教区聖堂(サンタ・クルス美術館寄託)、トレド、スペイン
©Parroquia de San Nicolás de Bari. Toledo, Spain.



「聖マルティヌスと乞食」1599年頃 奇美博物館、台南、台湾
©CHI MEI MUSEUM, TAINAN, TAIWAN

「受胎告知」1576年頃 ティッセン=ボルネミッサ美術館、マドリード
©Museo Thyssen-Bornemisza, Madrid



「悔悛するマグダラのマリア」
1576年頃
ブダペスト国立西洋美術館
©Museum of Fine Arts,
Budapest, 5640



「聖アンナのいる聖家族」
1590-1595年頃 メディナセリ公爵家財団タベラ施療院、トレド、スペイン
©Fundación Casa Ducal de Medinaceli, Hospital de Tavera, Toledo, Spain

エル・グレコ展 開催概要

会期：10/16(火)～12/24(月・休) 10:00～17:00(金曜は
19:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

会場：国立国際美術館(大阪市北区中之島4-2-55)

休館日：月曜日(ただし、12/24は開館)

観覧料：一般1,500円(1,300円)、大学生1,200円(1,000円)、
高校生600円(500円)

※〇内は前売り。中学生以下無料

お問い合わせ：06-6447-4680(国立国際美術館)

公式サイト：<http://www.el-greco.jp/>

※東京都美術館(2013年1/19～4/7)に巡回

エル・グレコとスペイン

美術を語る際、スペイン人は誇らかに自国の画家の名を挙げる。ベラスケス、ゴヤ、ダリ、ピカソ…確かに芸術大国としてその名を馳せる隣国フランスに負けず劣らず、スペイン美術史には著名な画家たちが名を連ねている。しかし、そこにエル・グレコの名前が出ると、スペイン人は決まって少し眉をひそめる。中には臆面も無く「彼は頭が狂っているから、あんなおかしな絵を描くんだろう？」と口にする者もいる。16世紀から17世紀にかけて、スペイン黄金時代と呼ばれた文化の円熟期の中で、ゴヤ、ベラスケスと並んで評価されているはずのエル・グレコはしかし、実際には一人だけ異質な存在として扱われているのだ。

それは単に、エル・グレコがギリシャ人であったからというだけでなく、彼の作品が他の同時代の画家と一線を画していることが、誰の目から見ても明らかだからであろう。ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロック様式へと移行を見せる時流の中で、いち早くその変化を作品に反映させ、そして他の追随を許す事がなかったエル・グレコは、30年以上に及ぶスペインでの画業の中で、彼の作風を突出したものへと昇華させたのである。

長くのびた人体が、微妙な曲線を描きながら空を仰ぐ様は、非常にきわどい所で美しいバランスを保っている。その人体表現は、情熱の赴くままに筆を走らせたように見えながら、その実、綿密に計算されている。彼の作品への態度は、生前のエル・グレコと対話した画家、フランシスコ・パチューコをして、偉大な哲学者と言わしめるほどであった。

彼の死後、息子のホルヘ・マヌエルや弟子のルイス・トリスタンが、エル・グレコの様式をまねようと試みた作品が数点現存するが、そのどれもが、エル・グレコの繊細な人体を表現する事が出来ずに終わっている。その結果、エル・グレコはスペイン美術史の中でも、唯一無二の存在となったのである。

後継者となる画家がおらず、時代の中で孤立したエル・グレコの作品は、彼の死後、スペインの画家であり著述家でもあったアントニオ・パロミーノによって、自著の中で「ばらばらなデッサンと味気ない色彩による、蔑むべきばかげた絵」と評価されることとなった。そして実際に、フェリペ2世によって注文された、彼の《聖マウリティウスの殉教》が王から拒絶された事や、トレドでの、教会との度重なる訴訟問題と合わせ、エル・グレコを「おかしな絵を描くおかしな画家」とする解釈が一般に流布するようになったのである。

しかし、生前、エル・グレコがトレドで大きな成功を収めていた事はまぎれも無い事実である。また、現在では、フェリペ2世はエル・グレコを評価していたものの、彼の作品が当時のフェリペ2世の思惑、つまり「トレント公会議に基づく、カトリック国家としてのスペインの再建」と合致しなかったために、彼の作品を公の場に飾らなかっただけで、決して彼の作品自体を否定した訳ではないと解釈されている。当時のスペインの絵画はカトリックの制約を強く受け、画家は教会の監督のも



「フェリペ2世の栄光」1579-1582年 エル・エスコリアル修道院、スペイン
©PATRIMONIO NACIONAL, Real Monasterio de San Lorenzo de El Escorial

と、細心の注意を払って作品を仕上げなければいけなかった。その中で、図像的には教会を納得させる「正しさ」を貫きながら、上昇するような大気、鮮やかな明暗、そして大胆なデフォルメによる人体表現で、その独自性をまざまざと見せつける エル・グレコの作品は、今日においても観る者に、よくも悪くも強烈な印象を残さずにはいられないのだ。

文 尾崎恵子



尾崎恵子
おぎきけいこ/Keiko Ozaki

1984年10月31日生まれ。兵庫県宝塚市出身。
16歳のときに家族旅行でトレドに赴き、そこで目にしたエル・グレコの《聖衣剥奪》に衝撃を受ける。
現在大学で西洋美術史を専攻し、スペイン美術の研究を行っている。

エル・グレコが倉敷にやって来た

スペインの古都トレド訪問の目的は人によってさまざまであるが、何よりもエル・グレコとの出会いを目的にトレドを訪れる人が圧倒的に多いのではないだろうか。エル・グレコは16世紀スペイン最大の画家として知られるが、出身はギリシャのクレタ島であり、本名はドメニコス・テオトコプーロス、通称エル・グレコ(ギリシャの人)と呼ばれるようになった。エル・グレコは今でこそ16世紀スペイン最大の画家といわれるが、評価が定まったのは、死後300年経った19世紀はじめのこと、スペインの碩学マヌエル・コシオによって見出されたという。

日本にもエル・グレコを見出した人物がいた。画家の児島虎次郎(1881-1929)その人である。児島は倉敷の大原美術館の創立者大原孫三郎の援助を受けて画家の道を歩んだ。1908(明治41)年から5年間ヨーロッパに留学して、ベルギーのガンの美術学校に学んでいる。

二度目からの児島の渡欧の目的は、後の大原美術館の基になる西欧絵画のコレクションの蒐集であった。第一回目の蒐集は、1919(大正8)年のこと、当時の現代フランス絵画が中心で、モネの《睡蓮》、マチスの《画家の娘》など18名の画家の作品27点を入手している。この時、児島は44日間に及ぶスペイン旅行を企てている。マドリッドでは当時スペインに留学中の京都の生んだ洋画家、須田国太郎(1891-1961)と出会い、彼の案内でプラド美術館を訪れている。館内で児島はベラスケスやゴヤなどスペインの画家の名作と出会って驚きの連続であったという。

「中でも、ひときわ目を引いたのが、天と地の間を浮遊するかのようなグレコの宗教画だった。『LA ANUNCIACION』と記され、それは「受

胎告知 聖母マリアへのお告げ」を意味した。」

「神秘的でしょう」

須田の声は耳に入らない。

虎次郎は雷に打たれたように、立ちつくした」注1

二回目の蒐集は1922(大正11)年のことで、このとき児島はゴーギャンの《かぐわしき大地》、ロートレックの《マルトX夫人の肖像》らとともにグレコの《受胎告知》を手に入れたのであった。入手したのは、スペインではなく、フランスであった。パリの凱旋門の近くにある有名画廊、ベルネーム・ジュヌヌをのぞいていた児島は、壁にかかっている《受胎告知》を見つけ、それを日本に持ち帰ったのである。

《受胎告知》は、大原美術館の顔である。

「素晴らしい。グレコ1点のみをみるだけでも来た価値があったよ」注2

1923(大正12)年7月31日、京都の洋画家・黒田重太郎(二科会会員、1881-1970)は、倉敷の大原家の蔵に置かれていたグレコの名画を観て、このようにうなったという。そして、日本でもエル・グレコの名は人口に膾炙し、スペインを訪れる日本人は、必ずといっていいくらいトレドにエル・グレコを観に行くようになった。

(注1・2はいずれも山陽新聞社編『夢にかけの大原美術館の軌跡』1991年、からの引用です。)

文 坂東省次

絵画ポスター

サイズ：29.6 X 23.9 cm

価格：各1,260 円

www.
adelante
shop.jp

1



2



3



4



5



6



1. バルセロナ・サグラダ・ファミリア 2. アンダルシア地方・パティオ
3. マドリッド・メトロポリスビル 4. ひまわり畑
5. バルセロナ・グエル公園 6. マドリッド・マヨール広場

【お問合せ・ご注文は】 有限会社 ADEL ANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122
E-MAIL: info@adelanteshop.jp



東日本大震災復興チャリティイベント スペインフェア2012 開催レポート

2012年6月9日、10日の2日間にわたり、大阪にあるAP梅田大阪にて第2回スペインフェアが開催されました。関西では珍しいスペインをテーマにしたイベントに、多くのスペインファンが来場し、楽しいひと時となりました。来場者の中には、埼玉や沖縄など遠方からお越しになった方もいらっしゃったようです。

会場では、スペインに関連した事業を行う企業ブースが立ち並び、舞台上ではフラメンコやギターリサイタルをはじめとするショー、スペイン文化をテーマにした講演、映画上映、企業のプレゼンテーションなどが行われ、来場者は会場で販売されたスペイン料理を片手に演目を楽しまれています。

今号では、今年のフェアの様様を皆さんのコメントとともにご紹介してまいります！



まずは第2回目のスペインフェア開催おめでとうございます。今回の会場は梅田にあるaxビル4FのAP梅田大阪にて2日間に渡り開催されましたが、交通アクセスも便利な上、会場もキレイでお客様も大変喜ばれていました。

会場内ではたくさんの種類のタパスに生ハム、チョリソとお値段も格安だし、とても美味しかったです。

それぞれのブース(食、歓談、販売、観覧)がコンパクトながらすっきりしていて、お客様が自由にスペインフェアを楽しんでいたように感じました。

私達も今回は2日間出演させて頂きましたが、舞台も設置されていて演者側としても気持ちよくアトラクション出来ました。今回もオーソドックスなフラメンコに石川敬子フラメンコ舞踊団ならではの演目(新作)を披露しましたが、お客様も一体となり楽しんで頂けたので、とても嬉しく思います。

毎回バージョンアップするスペインフェアになると確信していますので、次のスペインフェアが今から楽しみです。

主催者のスペイン文化協会、多くのボランティアスタッフの方々、そして関係者各位様、ありがとうございました。

石川敬子フラメンコ教室 棚原美和



スペイン・フェア参加回顧録

島田(以下S)先日の感想を…ということで、みんなの感想を聞こうと思います。
ミゲロン(以下M) 僕は初日のお昼に早目に会場に行ったんだ。友達のカルロス・パルドの演奏と奥さんの渡辺万里さんの講演を聞きたかったからね。会場は去年よりも広く、ステージもあって、客席も見やすくてとってもいい感じだった。いろいろなスペインのお店やビール!嬉しかったねえ。けど残念だったのは音響設備。

S) そうでした…。今から会場に行こうかと思っていたところへ「マイクとスピーカー用意して!」って電話には正直焦りました。電車で行こうと思っていたところ急遽、車に変更して、準備からなんやかんや…大変でした。

兼子(以下K) あれだけの大きなスペースに何百人ってお客様がいて、お祭りだからみんながやがやしてるし。かなりの音響設備が無いとちょっとしんどいかな。

M) 2日間、いろいろな講演や、映画、フラメンコもたくさんのグループが出演して、今回は盛りだくさんなプログラムだったよね。僕たちも2公演出演させてもらって内容を変えたし。日曜日は子供も出演させてもらった。

K) 連日遊びに来る人のためにいろいろあったほうが楽しいと思ったし、スペイン文化を広めるためなら、子供も一緒に楽しまなきゃ。

S) 会場にもたくさんの子供がいましたね。スペイン人はもちろん、他の国の人も大勢いて賑やかでした。

M) 会全体は去年より充実してたり、来客者数もとても多かった。それだけに音響が残念だったな。あれだけのプログラムを組むなら次回は音響設備も用意してください。そうしたら、舞台出演者の人たちも他のプログラムを楽しんだり、交流する余裕ができたのに…。

K) 何千人も参加し、多くのボランティアスタッフを動かすイベントを作ったスペイン文化協会のアレハンドロや池本さん、協力者の皆さんはすばらしいと思います。

M) ほんとだね。だからこそ、ミュージシャンの僕には音響が…。

K・S) しつこいなあ〜。

M) …次回期待しています。みんなで協力して毎回良い会にして、長く続けていきたいね。アレハンドロ…他、ありがとう!

フラメンコスタジオMIGUELON

ミゲロン(ギタリスト)、兼子八重子(バイラオーラ)、島田知幸(ギタリスト)



VOCES DE LOS VOLUNTARIOS

ボランティアのみなさんの声

スペインフェアでは、多くのボランティアの方にご活躍頂きました。

日頃からスペイン語を学んでいらっしゃる方や、スペイン語圏に在住経験のある方、フラメンコなどのスペイン文化に興味のある方。

今回は、その中から、数人の皆さんにスペインフェアの感想を聞いてみました！



今回はボランティアスタッフ、そしてフラメンコのイベントでも踊らせて頂き、2日間をスペインの香りを満喫させて頂きました。

とにかく楽しかった。仕事の合間の休日をフルでボランティア。正直、体力が持つかどうか心配でしたが、そんな心配も無用な程、あっという間に楽しく時間は過ぎていました。

私の役割はピンチョス作りでした。顔見知りの人や初めてお会いする人、それぞれが協力しあい、仲良く段取り良く働けたことが一番です。そして、何より食いしん坊の私にとって、多くの種類のピンチョスの作り方を教えていただいたことが嬉しかったです。それぞれの場所のスタッフも笑顔が飛び交い、みんなで楽しく作り上げられたイベントだと感じました。

フラメンコショーでは私の通う教室「フラメンコスタジオ ルイサ」の仲間と皆様の前で踊らせていただき、緊張しながらも多くの方々にフラメンコを知っていただく喜びを感じました。

また、他のフラメンコ教室の方々とも良い意味で「競演」でき、刺激となりました。「より多くの方にスペインを知って頂きたい」その気持ちを叶えてくれるスペインフェア、これからも続けて頂きたいです。そして私も少しでもお役に立てたらと思います。ありがとうございました。

高見由美

日々の生活の中でスペイン語を使う機会はなかなかありませんが、スペインフェアでは、日本に居ながらにして、たくさんのスペインに触れることができました。

スペインフェアには、ボランティアとして、昨年の第1回に引き続き2年目の参加でした。前回は、挨拶と自己紹介程度のスペイン語しか話せなかったのが、早口で話すスペインの方たちが、何を言っているか理解できず、とても悔しかったのを今でも鮮明に覚えています。しかし、今年は、相手のスペイン語を聞いて理解することはもちろん、相手に自分の意見を伝えられるようになっていました。端から見れば、単にスペイン語で会話が出来た、というだけなのですが、できなかった時は比べ物にならないぐらい充実した時を過ごせたのです。もう既に、次回のスペインフェアが待ち遠しいです。

さらにこのイベントの魅力は、他大学のスペイン語を学んでいる学生、スペインに関心した事業をされている方、スペイン語の先生、スペインが大好きな方など、本当にたくさんのスペインファンに出会えることです。皆さんのお話を聞くと、それぞれが様々な理由でスペインに魅了され、スペインの素晴らしさを伝える活躍をされています。かくいう私も昨年のスペインフェアへの参加がきっかけで、スペインの食文化に興味を持ち、京都にあるSHERRY BAR Venga!!で、アルバイトを始めました。

スペインには本当にたくさんの顔がありますが、その様々な魅力に出会うきっかけとして、スペインフェアはとても素晴らしいイベントではないかと思います。私もシェリー酒とベネシアンを通して、学生にできる精一杯の方法で、スペインの素晴らしさを多くの方へ伝えていきたいです。

京都外国語大学スペイン語学科 田中亜里沙





楽しめました。ワインあり、生ハム、タパスあり、プログラムには見逃せない内容がズラリ。そこにスペイン大好き皆さんが集まったのですから、場内の盛り度数はグングン上昇。来場者の方々の楽しみ方はひとそれぞれで、飲み物を手にあちこちで歓談に夢中のグループ、書籍コーナーで熱心に見入っている中年さん、そしてステージで「番組」が始まるとその催し物を聞いて或いは観てと、忙しい。なのにこれが又楽しい。プログラムが上手く組まれているので来場者を退屈させません。どの顔も笑顔。そして笑い声。「只今スペインフェアを楽しんでいます。」と顔に書いてある。私もそのうちの一人。

初参加の人たちも含め、ひたすらこのフェアを楽しみに来られた人たちが大部分でしたが、一方揃いのTシャツを着用したボランティアさん達の働きも忘れてはなりません。

今回、講演「カミノ・デ・サンティアゴ」で私の巡礼体験談を聞いていただきました。聖地サンティアゴ巡礼を考えておられる方のご参考になれば幸いです。フラメンコショーとギター演奏は開演時間前にすでに満席。大拍手と共に気分は最高潮。そして気がつけばあっという間の2日間でした。楽しいお祭りでした。

アデランテのスタッフの皆様ありがとうございました。来年の「第3回目」を楽しみにしていますよ。また会おうぜ！

高槻市 杉本嘉孝

今回のスペインフェア2012に、ハモンコルタドールとしてボランティアスタッフで初参加。2日間のイベントにたくさんの方が来場され、生ハムやタパス・パエリア・シェリーなどのスペインの食文化をはじめスペイン語、フラメンコ、書籍などスペインの様々な文化を楽しんでいただける濃い内容のイベントだったと思います。

私は、コルタドールとして、ご来場いただいたたくさんの方に、切りたての生ハムをサービスさせていただきました。丸太一本の生ハムをカッティングする姿はなかなかの迫力だったと思います！ご来場された多くの方々に目の前で生ハムのカッティングをお見せすることができました。

更に、興味のあるご来場者や学生、ボランティアスタッフの方たちにも生ハムのカットを説明しながら実際にカッティングを体験していただきました。スペインの代表的な食文化の一つである生ハムの醍醐味を見て・触れて・感じていただける絶好の機会だったと思います。

また、スペインに興味のある方々、スペインに関わる方々に今回たくさんお会いできたこともとても嬉しい経験となりました。また、今後多くの方々にスペインの良いところを紹介できる機会があれば是非参加させていただきたいと心から思っております。ありがとうございました。

横川剛貴



何かスペイン語に関わる事はないだろうかと探していた時に偶然見つけ応募したスペインフェアのボランティア募集。少し不安でしたが、皆さんのチームワークと仲の良さですぐに馴染むことができました。

フェア当日は本の販売を担当。絵本などの簡単な読み物、小説、参考書やDELEの対策本など初級から上級者向けまでバラエティーに富んだ本がありました。ネットショッピングが盛んな昨今、欲しい本はクリック一つで買えるかもしれませんが、実際に手に取り、内容を見て選ぶことができるというのは買う側からすると非常に大きなメリットです。実際買いに来られた方々も、どれが良いのか時間をかけて選んでいらしゃいました。選びながらスペイン語を始めたきっかけや旅行話、体験談の数々を話して下さったりと、良い情報交換の場ともなり、あっという間に1日が終わってしまうという2日間でした。

仕事の合間にはピンチョスや生ハムなどを片手に、舞台上で披露されているフラメンコを見たり、ギターの演奏を聴いたり、観客としてもフェアを楽しむことができました。

このイベントを通して思ったことは、スペインやラテンアメリカなどのスペイン語圏が好き！スペイン語が好き！という方々は、皆さん少しラテン系でノリも明るいんです。年齢、性別を問わずにすぐにアミーゴになれるような、心地良い感じがフェア全体に漂っていました。折角スペイン語を学んでいても実際にスペイン語を話せる場や、活かせる場は、残念ながらとても少ないように感じますので、今回のスペインフェアのように文化に触れたり、情報交換や沢山の交流ができる場、スペイン語が飛び交う場が少しでも増えるといいなと期待しています。

清水尚子





※スペインフェアのパエリアは大阪、西梅田にあるスペインレストラン UNICO様よりご提供頂きました。

COMENTARIOS DE LOS COLABORADORES

協賛の皆様からのコメント



スペインフェアに初めて参加させていただきました。私共の施設は、雄大な英虞湾の大自然に囲まれた立地とスペインを中心とする地中海のリゾートを再現したホテルでございます。今回、このフェアに参加すること

になったきっかけは、関西圏での知名度が低いことやスペイン好きの皆様が集うフェアでぜひ施設を知っていただきたいという思いからでした。おかげさまで会場内にブースを設け、プレゼンテーションの機会も得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。全く初めてのイベント参加でしたが、会場のすごい熱気と盛りだくさんの発表内容に私達スタッフも心から楽しむことができました。何よりも来場者の方々が大のスペイン好きであり、陽気で笑顔溢れるステキな方々と楽しい会話を交えながら、交流できたことは素晴らしい経験となりました。ぜひまた来年も皆様にお会いできる日を心待ちにしております。本当に有難うございました！

株式会社志摩地中海村 <http://puebloamigo.jp/>



在日20年のスペイン、ラ・マンチャ出身陶芸家ヘスアルドが主催する陶磁器工房ルバルテは、制作活動の場を今年6月から栃木県那須烏山市から淡路島に移しました。そこで移転してすぐ、縁あって第2回スペインフェアに参加することになりました。関西では初めて作品を紹介する機会。2日間という短い期間の中でしたが、いろんな方々との出会いがあり充実した時間を過ごすことができました。スペイン(スペイン語)という唯一の共通点で、いろんな趣味や興味関心をお持ちの方が関西にこれだけたくさんいるということを再認識できた2日間。次から次に予定されていたイベントを横目で感じ、またおいしいパエージャやピンチョスをつまみながら、さらにフラメンコも楽しむことができ、盛りだくさんイベントにびっくり!またこういう機会があれば是非参加していきたいです。そして工房ルバルテは、これから少しずつ関西を中心に作品発表していきたいです。陶芸にご興味をお持ちの方、是非スペイン語を使って陶芸してみたい方、淡路島の工房でお待ちいたしております。ぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

陶磁器工房ルバルテ www.lubarte.com



大阪の堀江でスペインタイル絵付けの教室を開いているスペインタイルアート工房です。スペインフェアには2度参加し、前回はスペインタイル絵付け体験ワークショップ、今回は手描きスペインタイルの販売を致しました。

スペイン好き、フラメンコ好きの方々が大量にいらしてくださったおかげでどちらも大盛況!次回はまた違った形で「スペインタイル」をご紹介したいと考えております。

スペインにいらしたことがある方なら、街を彩るあのきれいなスペインタイルをご存知の方も多と思います。西区の堀江にある当教室では、スペインから直輸入した絵付け材料を使い、本場スペインのバレンシアで学んだ講師がタイル絵付けの基礎から丁寧に教えています。

スペインタイルの表札やギフト販売もしていますので人とは違った「何か」をお探しの方、是非一度教室へ、またwebsiteへお越しください。

スペインタイルアート工房 大阪教室
<http://homepage1.nifty.com/spaintile/>



大阪スペインフェア2012にて、エクストラバージンオリーブオイル Maria del Carmen The Organicを出展させていただきました。西日本では初めての試みでしたが、予想以上の大好評をいただきました。

2012年1月にスペインのレウス村で収穫、圧搾、ビン詰め、輸出をした商品で、今回、とても新鮮な状態でお届けできました。おそらく、これ以上新鮮なオリーブオイルは日本国内ではないのではないかと自負しております。それゆえ、生食のためのオリーブオイルと申しても過言ではないでしょう。まさに、その点を試食された約400名の皆様が、一様に指摘して下さいました。生のまま口に含むと、少し青臭くピリッとする感じ。まさに、それこそがエクストラバージンオリーブオイルの特徴なのです。会場では、小さなお子様から食事制限をされている方々まで広くお楽しみいただけたかと存じます。

また来年以降も、大阪の皆様へ、大阪スペインフェアに行けば必ず会えるエクストラバージンオリーブオイルとして、出展させていただきたいと考えております。
株式会社デコ 西日本企画販売部長 江口尚子 <http://www.carmen.jp/>



開催2日間ともに出展し、スペイン菓子の展示・ご紹介・ご試食やチラシの配布などをさせていただきました。たくさんの方と接する中で、お菓子に対する感想や、ご要望、励ましなどをいただき、今後に生かせる多くの経験やPRをすることができました。スペイン菓子は

はまだよく知られていないのですが、大変好感をもって受け入れていただきました。

今回初めて参加させていただき、このフェアがスペイン文化に接することができる素晴らしいチャンスも多くの方々に提供していると感じました。自社のPRということを超えて、国際交流に携わっているという自負や誇りも感じることができた2日間でした。

来年のスペインフェアが今年よりもっとパワーアップされることを期待しております。出展を検討されている会社や個人の方々、来年は是非参加し一緒にフェアを盛り上げていきましょう!

スペイン菓子工房ドゥルセミーナ 藤本恭子 <http://triumfo.blog75.fc2.com/>

『スペインフェア2012 開催レポート』、お楽しみいただけましたでしょうか。

スペインフェアは、皆様の御協力・御協賛のもとに開催され、多くの方にご来場いただくことが出来ました。

『スペインが好き』という共通点で集まった開催者、出演者、ボランティア、協賛者、そして来場者の皆さんが一つになって、素晴らしいイベントになったのではないのでしょうか。

スペイン文化協会では、現在第3回のスペインフェアを企画中です。今年ご来場いただけなかった方々は来年こそ是非ご参加下さい。そして今年ご来場いただいた皆様と、来年も会場でお会い出来るのを楽しみにしております。

最後に、今年度のフェアにご協力頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

スペイン文化協会 スタッフ一同

想いを届ける、パエリアバス

UN "PAELLA BUS" CON CORAZÓN



2011年3月11日に発生した東日本大震災は、
日本に甚大な被害を与えました。

京都で4つのスペイン料理店を経営する株式会社バハルボールのオーナー、
木下清孝さんが動いたのは、その直後。

「自分たちができることをやろう！今こそ自分たちを育ててくれた日本に恩返しする時だ！」。

バハルボールはチャリティレストランや、チャリティバルを精力的に開催。多くの義援金を寄付しました。

それと同時に、さらなる思いもわき上がってきたのです。

「自分たちだからできる何かを、ダイレクトに届けたい」。

そして誕生したのが、パエリアバス。

今回はパエリアバス・プロジェクトの隊長、池上龍司さんが、
その活動に懸ける思いを語ってくれました。



パエリアバスに描かれた
イラスト

震災が起こって間もない3月下旬、私は会社の定休日を使って、東北に向かいました。まだ、被災地に関するさまざまな情報が錯綜している時だったので、自分に何ができるか見当もつきませんでした。でも、とにかく「被災地の現状を見なければならぬ」という気持ちが強かったので、わずか1日の定休日でしたが、「行けるところまで行こう」と。そして気仙沼などで被害状況を見ると同時に、最終的には塩竈にあるボランティアセンターで、当時の状況を詳しく聞かせていただいたんです。

その後、バハルボールではほぼ月に1回のペースでチャリティレストランやチャリティバルを開催し、売上を被災地に届けてきたのですが、もっと何かできることはないかという思いが社内にわき起こってきたのです。そして夏、店長が集まって会議している中、「パエリアを被災地に届けられないだろうか」という話が浮上し、実現に向けて準備することになりました。それともうひとつ、「日本全国から募ったスイセンの球根を植えて被災地を応援する」というスイセンプロジェクトをオーナーのお友達が実行されていて、そこから「何か一緒にしないか？」というお話をいただいたことも、大きな契機となりました。では誰が中心となって計画を進めるかという話になった時、どの店舗の専属でもなかったこと、そして被災地に行ったことがある人間ということで、私が適任だろうという話になったのです。

計画がスタートしてからは現地との連携を図るとともに、そして現地でどのような形でパエリアをつくり、提供するかの試行錯誤を繰り返しました。また、スタッフや機材、食材を搭載できる大きさの車を購入。見ているだけでも元気が湧いてくるような鮮やかなイエローとパエリアのイラストでペイントを施しました。

そして2011年9月末、いよいよパエリアバスが初めて被災地に向かいました。目的地は釜石市にある仮設住宅。直径1メートルの

巨大な鍋4枚を使い、200人分のパエリアを提供しました。また、食材もサンマや野菜、米など、できるだけ地元のものを使用し、少しでも地域と関わるように配慮しました。仮設住宅の人々の中には、初めて見る巨大なパエリアに驚く人、初めて食べるパエリアに笑みを浮かべる人もいて、本当に来て良かったと感じました。

その後、2011年11月には、秋の台風で大きな被害を受けた和歌山で開催されたチャリティイベントにもパエリアバスが出勤。今年の5月には再び釜石を訪れてパエリアを提供してきました。

現在、各種チャリティの売上はもちろん、バハルボール全店舗で提供するパエリアの売り上げの一部をパエリアバスの運営資金に充てています。また、祇園祭などの行事やイベントにもパエリアバスは出勤し、運営資金を集めています。

パエリアバスの合言葉は「おいしさと元気を届けます」。大きな鍋でつくったパエリアをたくさんの人と一緒に食べることで、よりたくさんの笑顔をつくっていききたいと、私たちは考えています。今後は、東北の南部鉄でつくったパエリア鍋を使ったり、新しいパエリアをご当地グルメとして東北の方々と考えたり、被災地の方と一緒にパエリアをつくったりと、アイデアをどんどん実現していきたいですね。

私たちの仕事はパエリアをはじめとするスペイン料理を通してお客さまに喜んでいただくのが最大の目的。おいしいものを食べた時のお客さまの笑顔が自分たちの喜びなのです。そんな思いを持った仲間たちが集まったのが、バハルボールという会社です。これからも店舗の運営に加え、パエリアバスの活動を通じて、たくさんの人に笑顔と元気をお届けしていきたいと思っています。

(池上龍司)



写真上：喜んでいただけるよう、願いを込めて、一人一人に手渡します。
写真左：パエリアを食べて下さった釜石の皆さん



株式会社バハルボールでは様々なパエリアバス・プロジェクトを展開中です
詳細はウェブページをご覧ください！ <http://www.bajarbol.jp/>

隊長、池上さん(右から2人目)をはじめとするプロジェクトメンバーたち



スタッフ募集中!

ディレクター、店長・店長候補、アルバイト

- ※ 正社員2013年度採用分スタートします。
- ※ アルバイト随時募集中

企画力、サービス力、調理技術、語学力を活かしながら、
会社と一緒に成長していきませんか?
未経験の方もしっかりサポートします。安心してスタートできます。

- ★ アルバイトから正社員登用もあります。
- ★ 各種社会保険完備。
- ★ 正社員は1ヶ月のVacation有り。
- ★ 男性社員も育児休暇を取っていただきます。

◆勤務地

- La Masa (ラ マーサ)
京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町446 若林ビル1F
- EL FOGON (エル フォゴン)
京都市中京区御幸町御池上ル亀屋町380



iVamos a
trabajar juntos!

■お問い合わせ先■

株式会社バハルボール

TEL:075-212-5703 採用担当まで

詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.bajarboll.jp/>

- La Gallega (ラ ガジェガ)
京都市東山区川端三条下ル東側大黒町137

- FUIGO (フイゴ)
京都市中京区三条高倉東入ル榎屋町55 白鳥ビル2F





ガストロノミーの新世界・旧世界

2012年4月22日から23日の二日間、北海道の函館で「第3回・世界料理学会」が開かれた。

そもそも、函館という地方都市でなぜ、大人数ではないとはいえ外国からもシェフたちを招くという規模の料理学会が開かれるようになったかという、それはこの函館を愛しスペインを愛する深谷さんという人物がいたからこそ、という長い話になる。彼は「一介の」料理人であり、それを誇りとしている。この学会は深谷さんの言葉を借りるなら「料理人の、料理人による、料理人のための」学会なのである。

その学会に参加した料理人のなかで、スペイン語圏から招待されてやってきた二人。メキシコから参加したエドガー・ヌニェスとスペインからのイニャキ・ロドリゴについて、今回は紹介したい。というのも、この二人が、そういう意図で選ばれたわけではないにもかかわらず、遠く離れていながら同時にとても近い二つの文化圏の、現在の料理界のあり方を、ひとつのくっきりした対比として浮かび上がらせて見せてくれたからである。



函館での「世界料理学会」の開会式

メキシコからやってきたエドガーの発表の通訳を頼まれた私は、その初対面からきわめて陳腐なことを言ってしまった。

「私、メキシコ料理にはとても興味があるの。モレとかトルティーリヤとか・・・」

エドガーは顔をしかめて私の言葉を遮った。

「そういうものだけがメキシコ料理だと思わないでほしい!メキシコ料理というのは、世界中で一番誤解され冷遇されている料理なんだ!」

私は、今までの長い年月のあいだ、スペイン料理について繰り返し聞かされてきた言葉を思い出した。

「私、スペイン料理大好きです。パエリアとかサングリアとか・・・」

そして、私がうんざりするくらい何度も繰り返してきた返事。

「パエリアだけがスペイン料理だと思わないでください!あれはただのバレンシアの地方料理、もっと違う色々なスペイン料理を知ってください!」

私が憤慨してきたのと同じように憤慨しているエドガーの顔をみながら、私は急に、このシェフの発表が楽しみにになってきた。

まだやんちゃな少年時代を抜け出していないような印象を与える外観とはうらはらに、料理に相対するときのエドガーは常に真剣で、地に足の着いた考え方、いたって常識的なポリシー、料理に対する真摯な情熱で私を驚かせてくれた。

「昔からの料理を、一度分解して再構築することもやってきたが、それだけでは満足できない。僕はまったく新しい自分独自の料理を作りだしていきたい。でも、それもれっきとしたメキシコ料理だよ。だって、メキシコの食材でメキシコ人の料理人が作れば、それがメキシコ料理だろう?」

彼は、自分の料理をこう定義する。そして実際、彼の料理を見ていくうちに感じたのは「メキシコの食材」に対する彼の深い思いだった。

「メキシコはトマトの原産地だ。昔からのトマトの栽培方法がある。しかし貧しい国だから、だれも買ってくれない、儲からないとなったら

作るのをやめて出稼ぎに行ってしまう。だから今僕たちメキシコの若い料理人たちは、そういう本来のトマトを作り続けてもらうよう、生産者たちに働きかけているんだ。」

「今回の学会のテーマのひとつでもある海草が、メキシコには昔からある。アステカの時代にはそれを食用に使っていた記録もある。でも、そのあと誰も料理に使おうとは考えなかった。僕は今進んで海草を使い、資源の新しい使い方として紹介していきたいと思っている。」

確かに、それはトルティーリヤともモレとも違う、しかしメキシコ人シェフの作りだす料理の世界ということになる。それを言うなら、ほんの少し前には、スペインの若手シェフたちも、同じ考え方で新しいスペイン料理の世界を手探りしていたのである。

そんなエドガーが、メキシコ・シティを中心とする地域のシェフたちが集まって、新しいメキシコ料理を模索していくというイベントのポスターを誇らしげに見せてくれた。

そういえば、スペインのマドリッドで10年以上にわたって開催されてきた大がかりな料理学会は最近、メキシコで同じイベントを開催している。メキシコ・シティでは、その他にもさまざまな料理学会が開かれ、テレビなどのマスメディアも若い料理人たちの動向から目を離さない。

この国のガストロノミーは、まさにこれから開花していこうとしているのだ。そしてそこで料理をする若者たちは、強い愛国心と誇りをもって、スペインをも乗り越える勢いで前進しようとしている。そんな頼もしいパワーと料理への愛情がエドガーから伝わってくる。

エドガーが会議のレセプションのために発表したピンチョスは、テーマである海草のワカメとスペインのハモンを使ったラビオリで、オーソドックスな嗜好ときちんとした技術を土台としながら、「あらゆる国の技術や知識を駆使して新しいメキシコ料理を作っていきたい」という彼の主張をしっかりと表現していた。これだけでなく、エドガーの作る「新しいメキシコ料理」を食べてみたいな、と感じさせてくれる一品だった。

メキシコで活躍するエドガーと彼の料理



borrego en salsa de verduras
地元の野菜をソースにした羊肉



「sopa de cebolla gratinada」外側がキャラメルで固めてあるスープ。割ると中からオニオンスープがあふれる。

「conserv-arte」 缶詰を開けると、中はオリジナルのピンチョス。



一方、イニャキは、バスク地方ビトリアでピンチョス（バスク独自のタパス）のレストランを営むスペイン人シェフである。元々は俳優だったというユニークな経歴の持ち主でもある彼の発表は、自己紹介をかねたVTRから料理の説明に至るまで「juego 遊び」というキーワードに貫かれていた。

ピンチョスの大きなコンクールで何度も優勝しているという彼の作品は、どれも視覚の遊び、言葉の遊びに終止していて、思わずにやっと笑ってしまうようなものばかりなのである。

スペイン人なら小さいときに誰もが食べたことがあるはずの離乳食 potito の瓶に詰めたピンチョス。スペイン版ダイヤモンドゲームのような parchis の駒と同じ 4 色に色分けしてゲーム板に並べたピンチョス。Conservante（保存料）にひっかけて conserv-arte（保存するアート？）と命名した缶詰の形のピンチョス……。そのユーモア感覚には思わず笑ってしまうのだが、よく見ると素材の組み合わせや味の組み合わせには料理大国であるバスクならではの知恵が随所にちりばめられている。決してただの思いつきだけではできない、基礎があつてこそその作品であることが次第に見えてくる。

イニャキのやり方が、現在のスペイン料理界を代表しているわけではない。しかし私の率直な感想は「これが今のスペインだなあ。スペインはここまで来たのだなあ」ということだった。それはつまり、スベ



「Que percibes?」 ベルセベスという貝そっくりに、チョコレートやアーモンドで作ったピンチョス。タイトルもベルセベスのもじり。



函館で制作したピンチョス・コンクール優秀作「chip'yron」チピロン（小イカ）、ジャガイモなどのピンチョス。

イン料理の世界ではすべてのものが出尽くした、行き着くところまで行ったという意味である。

「エル・ブジ」の料理で世界を席巻したフェラン・アドリアは、スペイン料理界を根底から変えた。もはや現在、どんなに保守的な料理人でも彼の発明した espuma（ガスを使って液体を泡状に換える器具）をはじめとする料理法を知らないとはとぼけることはできないし、小さなボーションで提供するたくさんの皿から構成されたメニューの存在も否定することはできない。

それと同時に、少し斜めに構えた見方をするなら、フェランはあまりにも大きな存在であつたがゆえに、そのあとに続く料理人たちに、完璧に新しいものを発明するという余地をあまり残してくれなかったと言えることもできる。

そんなスペイン料理の世界で今、「何をどう出すか」は、それぞれの料理人の自由であり、そこに今まで以上の自己主張が必要となってくる。言い換えれば、これだけあらゆる料理の可能性が出そろったスペインで、今どんな料理を作りたいか、ということ、スペインの料理人たちは一人一人が問いかけられながら暮らしている、と言ってもいいかもしれない。イニャキの少し極端なまでに徹底した「遊び心」というのも、そのひとつの答えなのだろう。

レセプションに出されたイニャキの作品は、イカ、ジャガイモなどごく平凡な食材を、意表をつくようなカラフルなピンチョスに仕上げたもので、いささか驚くほどの色彩と食べた時のごくオーソドックスな味の対比が彼ならではの個性を表現していた。絶えずふざけているようなイニャキもやはり、スペイン料理界を支え発展させてきたバスク・ファミリーの一員であることを、この一品が見事に証明してくれたと言ってもいい。



イニャキの自己紹介のビデオから。

バスクのピンチョスは、スペインのなかでもとりわけ美食が根強く発達してきたバスクだからこそ生まれた独自の食文化である。そのジャンルで「新しい」ものを探すという難しい課題に果敢に挑戦しているイニャキに、私は心からの声援を送りたい、と感じたのだった。

会議が終わったあともエドガーと連絡をとり続けているうちに、最初に思った以上に彼が強い愛国心の持ち主であることには驚かされた。世界の中で、経済的には決して豊かな位置づけにあるとはいえない母国。その国の文化である「食」を通じて、メキシコを盛り上げていきたい、世界にもアピールしたい、フェランは尊敬するけれども、自分は自分なりにずば抜けた料理人になりたい、いや絶対になるぞ…。そんなエドガーの強い思いが、心意気が伝わってくる。

彼やその仲間の意欲が実を結ぶなら、もしかしたらメキシコの料理界はすごいことになるかもしれない。そんな予感さえ感じさせる力強さと確信が、彼の料理からも感じられる。そこには、エドガーの若さだけではなく、メキシコの若さがみなぎっているのである。

一方、厳しい経済的な危機のなかで、スペインはせっかく手にした食の世界での優位を、いささかもてあまし気味にしている。最高の技術はある。充実した人材もある。食材も素晴らしい。しかし、食べてくれる顧客なくしてガストロノミー、すなわち美食の文化は発展しない。料理人たちは、そういう意味でも難しい時期を過ごしている。

そんななかで、イニャキも含めてスペインの料理人たちは、様々な試行錯誤を繰り返し、生き延びる道を模索しているに違いない。

食文化に関して、思いもよらず世界の頂点にたったスペインと、それを追うメキシコ。スペイン語圏であるという共通項がつなぐ二つの国の料理界は、そして料理人たちはこれから、どう変わっていくのか。どんな進化を成し遂げていくのか。函館の二日間は、そんな興味深い課題を垣間見せてくれたようである。

文・写真 渡辺万里

Edgar Núñez エドガー・ヌニェス

1980年メキシコ生まれ。ヨーロッパ各国のトップレストランで学ぶ。メキシコ国内で数々のカフェやレストランの料理をプロデュースして注目を集め、現在「SUD777」ではオーナーシェフとして新しいメキシコ料理を目指す。

[SUD777]

Blvd. De la Luz 777 Jardines del Pedregal. Ciudad de Mexico.

<http://sud777.com.mx/>



Iñaki Rodrigo イニャキ・ロドリゴ

1970年スペイン・ビトリア生まれ。ピンチョスの全国大会で2回、バスク州大会で2回優勝した、創作ピンチョスの注目株。

現在は「Iñaki Rodaballo Jatetxea」のオーナーシェフとして、個性的な料理で注目されている。

[Iñaki Rodaballo]

calle Ricardo Buesa
4.Vitoria'Gazteiz.



写真上：
料理学会の閉会式

写真右：
エドガーと彼のタパス「serrano
tosta」コリアンダー、ウニ、わ
かめのラビオリをハモンのト
ーストにのせたもの。



渡辺万里

わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。

1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。

1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開校。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。

早稲田大学文化構想学部非常勤講師。

著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」(日本文芸社)、「修道院のうずら料理」(現代書館)、「スペインの窯から」(現代書館)など。

スペイン料理文化アカデミー <http://academia-spain.com>

〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2 TEL: 03-3953-8414

スペイン料理クラス、スペインワインを楽しむ会、フラメンコ・ギタークラスなど開催

エヨ・ムスパーニャ（その1）
「小さな村の大きな試み」

卵の成長具合をチェックするために捕獲する



リオフリオには年中豊富な水が流れる



生け簀で泳ぐ若いチョウザメ



孵化後3ヶ月のチョウザメの子



最終段階の生け簀の中には、17才以上のチョウザメがいる

アンダルシア地方のグラナダから西へ65キロほどのところに、リオフリオという小さな村がある。私が初めてこの村を訪れたのは、今から33年前のことである。同名の鉄道駅があり、その駅からのびる小道を下っていくと、泉があり、そこから流れる小川にそってさらに下ると集落がある。昔とたたずまいは多少変わったが、人口も村の規模もそんなに変わっていない。なぜ、ここで下車したのかは別の機会にすることにして、この村で新しく始まった、画期的な試みを紹介しよう。

古くから、この村はマス料理で有名だった。シエラネバダ山系から湧き出る、冷たく豊富な水を利用して、マスを養殖し、その場で調理し提供していた。もちろん今も週末になると近隣の人々が家族連れでやってきては、小川で泳ぐマスを見てから、数件あるレストランでマス料理に舌鼓を打つ。

新しく、といっても実はもう28年も前から、静かに画期的なプロジェクトは始まっていた。それは、チョウザメの養殖である。

チョウザメは、本場ロシアでも乱獲により激減し、その卵・キャビアは、超高級食材になってしまった。それにより日本をはじめとして、世界各地でチョウザメの養殖が試みられている。が、ここリオフリオでは、チョウザメのエサにする草から自然の中で栽培し、排水も自然の浄化作用を利用するという、徹底したエコをモットーにしている。さらに、製品のキャビアにはスペイン産の岩塩のみで、一切保存料を使わないようにし、健康志向にも配慮している。

チョウザメは、卵が採れるようになるまでに、17～18年もかかるため、最初のキャビアが採れたのは、ようやく11年前のことだった。かなりの歳月がかかったが、最近ではフランスやイギリスのテレビ局も取材に訪れるほどになった。リオフリオはマスではなくキャビアで有名な村へと変貌をとげつつある。

文・写真 篠田有史



リオフリオのキャビア



篠田有史

しのだゆうじ/Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。

24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。

【写真展】 スペインの小さな町で(富士フォトサロン)、遠い微笑・ニカラグア(〃)など。

【本】 「ドン・キホーテの世界をゆく」(論創社)「コロンブスの夢」(新潮社)「リゴベルタの村」(講談社)などの写真を担当。

スペイン留学ガイド

地方ごと異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪

あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか？

フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど…

お気に入りの街が見つければ、きっと、より充実した留学生活になることでしょう。

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。

ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、この他にも多くの学校をご用意しております。

まずは、電話やメールでご相談下さい。スペイン留学.jpでは、カウンセリングを行い、一人一人のご希望に合った学校を提案いたします！

※料金は1€=110円で計算した2012年5月のものです。入学金や宿泊先韓旋料、夏期料金等が加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。

サラマンカ

1218年に創立されたスペイン最古の大学があり、スペイン語を学ぶために世界中から学生が訪れる学生の街。トルメス川のほとりに広がる街には、カテドラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

<ドンキホーテ サラマンカ校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20+5時間/週)	190€ / 20,900円	3.720€ / 409,200円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	169€ / 18,590円	4.056€ / 446,160円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	120€ / 13,200円	2.880€ / 316,800円



セビーリャ

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある歴史的な街。スペインの三大祭りのひとつである、春祭りでも有名です。バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

<クリック・インターナショナルハウス セビーリャ校>

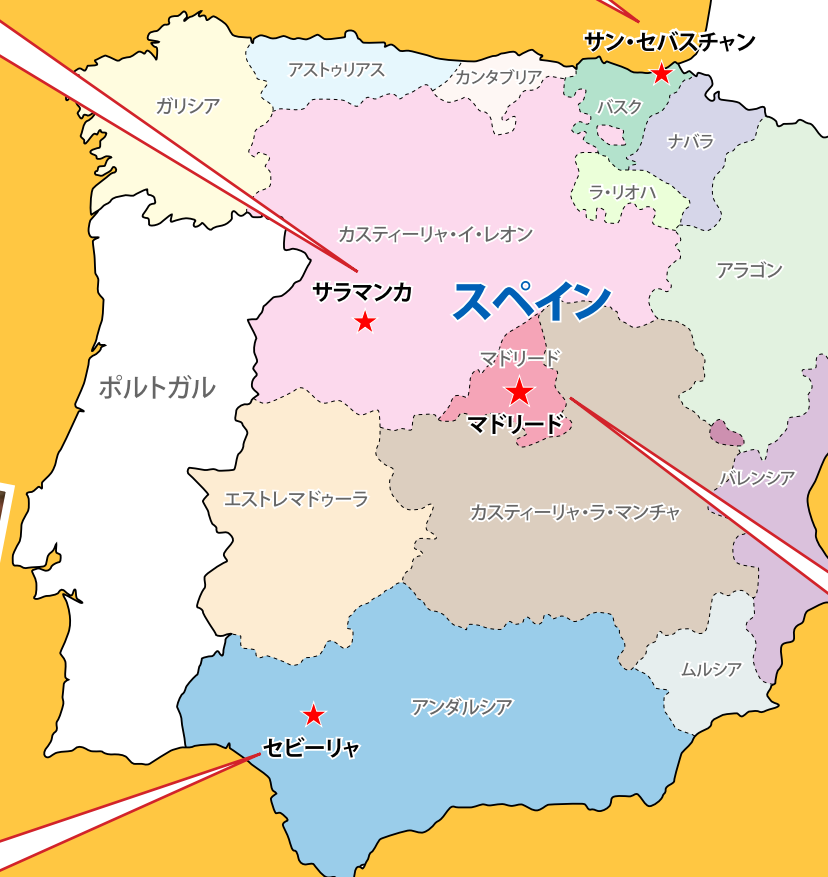
	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	175€ / 19,250円	3.360€ / 369,600円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	160€ / 17,600円	3.840€ / 422,400円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	100€ / 11,000円	2.400€ / 264,000円

サン・セバスチャン

フランス国境近くに位置し、バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも沢山人で賑わっています。貝殻の形をしたコンチャ湾で海水浴も楽しめます。

<ラクンサ・インターナショナルハウス>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	157€ / 17,270円	2.760€ / 303,600円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	212€ / 23,320円	4.728€ / 520,080円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	110€ / 12,100円	2.400€ / 264,000円





バルセロナ

スペインの中でも独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。スペインが世界に誇る建築家ガウディや、個性的な芸術家ダリ、ミロなど数多く生み出しており、「芸術の街バルセロナ」と呼ばれるほど、今も街のあちこちに多くの芸術作品が残されています。

<インターナショナルハウス バルセロナ校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	205€ / 22,550円	4,080€ / 448,800円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	220€ / 24,200円	5,280€ / 580,800円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	200€ / 22,000円	4,800€ / 528,000円



マドリード

世界的に有名なプラド美術館や王宮、レティーロ公園など見所がいっぱいの活気溢れる、スペインの首都。休日にはショッピングやバル巡りを楽しんだり、アート鑑賞に耽ったり・・・。

マドリードはスペインのほぼ中心に位置するため、他の都市へのアクセスも良好です。

<エンフォレックス マドリード校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20+5時間/週)	170€ / 18,700円	3,240€ / 356,400円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	229€ / 25,190円	5,496€ / 604,560円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	235€ / 25,850円	4,080€ / 448,800円

ご出発までの流れ

- ① 留学カウンセリング、お見積り
「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」など、漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールやお電話でお気軽にご相談下さい。
- ② 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留学手続代行申込書を提出
- ③ 入学手続き開始
- ④ 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
- ⑤ 学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使館へ提出
90日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ(91日以上180日以内)取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前、長期学生ビザ(181日以上)長期ビザ取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕を持って提出して下さい。
- ⑥ 留学費、海外送金手数料のご入金
- ⑦ 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発!

<当サポートサービスの範囲>

- ・選択された学校への出願サポート
 - ・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパート等の宿泊先申込手続(混雑状況によりご希望に添えない場合がございますので、事前にご確認下さい。)
 - ・留学費用の海外送金
 - ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
- ※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい。
※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配等は含まれません。各自でご準備下さい。
※海外送金手数料(約7,500円)はご負担となります。

よくあるご質問

- Q** 語学プラスαでどんな事ができますか?
A フラメンコ、サルサ、スペイン料理、ワインテイスティング、ゴルフ、テニス、サーフィン、スキューバダイビング、スペインタイルなど・・・、様々な楽しいプログラムをご用意。また、50歳以上の方向けに、ゆっくりスペイン語を学び文化を楽しむコースもあります。
- Q** 留学の費用はどのくらいかかりますか?
A 主にかかる費用の内訳は、入学金、教材費、授業料、滞在費、航空券代、保険代です。学校のプログラムや、宿泊タイプ、都市によって、かかる費用は大きく違ってきます。長期留学される方向けに受講料の長期割引がある学校もあります。
- Q** 語学留学しながらアルバイトはできますか?
A 学生ビザで入国した場合、スペインでは原則的にアルバイトは禁止されています。
- Q** どんな滞在スタイルがありますか?
A ホームステイ、共同アパート、学生寮、個人フラット、ホテルなどがあります。

スペイン留学.jpでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

【お問合せ】

スペイン留学.jp

URL: www.spainryugaku.jp

お電話: 06-6346-5554

E-mail: info@spainryugaku.jp



第1回全国学生フラメンコ大会

Concurso Estudiantil de Flamenco en Japón

2012年9月17日（月・祝）午後1時開会

（於）京都外国語大学森田記念講堂



予約不要
入場無料

主催：京都外国語大学スペイン語学科

京都外国語大学フラメンコ同好会 Girasol

出場校（アイツエオ順）：大阪大学、関西外国語大学、京都外国語大学、
京都産業大学、神戸松蔭女子学院大学、
東京大学、立命館大学ほか

問い合わせ先：京都外国語大学全国学生フラメンコ大会事務局

flamenco@kufs.ac.jp

比較構文の様々な用法について

前回の本欄では比較表現を取り上げましたが、読者の方からいつもより少し難しかったとのご意見をいただきました。今回は比較構文について基本的だけれど初級の教科書ではあまり詳しく扱われていない点について触れることにします。

まず、不規則な比較級を見てみましょう。初級の教科書では、スペイン語の比較級は形容詞や副詞に《más》、《menos》を付けて作る、と説明されています。もちろんその通りです。しかし、そもそもこの《más》、《menos》自体が不規則な比較級なのです。

mucho → más poco → menos
(多くの) (より多くの) (少ない) (より少ない)

他の不規則な比較級を見てみましょう。

grande → mayor pequeño → menor
(大きい) (より大きい) (小さい) (より小さい)

bueno / bien → mejor malo / mal → peor
(よい / よく) (よりよい) (悪い / 悪く) (より悪い)

《mejor》と《peor》は形容詞としても副詞としても使われます。

Me alegro de que mi abuelo se encuentre **mejor** que la semana pasada.

祖父が先週**よりよ**くなっていて嬉しい。

あまり取り上げられることがない比較級に《antes》と《después》があります。時間的に「より以前」「より後」という意味です。

Me pareció que el nadador japonés llegó **antes** que su rival americano.

私には日本人選手がライバルのアメリカ人選手**より早く**ゴールしたように見えた。

ところでラテン比較を知っていますか。スペイン語の元となったラテン語では、másを付けて比較級を作ったわけではありません。語尾自体が変化したのです。その名残がスペイン語にもあります。《-ior》で終わる形容詞がそれです。例えば、《superior》「もっと上に」という比較級です。他にも《inferior》、《anterior》、《posterior》、《interior》、《exterior》などがそうです(「senior」「junior」は語彙としてはスペイン語に残っています。ちなみにseñorの語源です)。ラテン比較は《que》ではなく《a》を伴うのが特徴です。

El nivel del español de tu novia es **superior al** tuyo.

君の彼女のスペイン語レベルは君**より上**だ。

比較を表す動詞があると言ったら驚かれるかもしれませんが。《preferir》のことです。これもラテン語から受け継いだラテン比較の一種ですので、前置詞《a》を使って、《preferir “A” a “B”》「BよりもむしろAを好む」と使います。

Ella siempre **ha preferido el pescado a la carne**.

彼女はいつも**肉よりも魚を好**んだ。

続いて「異同」を表す比較を見てみましょう。

「〜と同じ」という意を表す構文として《el mismo ~ que》があります。《mismo》は定冠詞を伴うことに注意してください。

Yo tengo **la misma** edad **que** tu hermana.

私は君のお姉さんと**同**い年だ。

定冠詞が中性の《lo》のこともよくあります。

Me da **lo mismo** verte mañana que hoy, pero mañana es mejor.

君に今日会うのも明日会うのも私には**同じ**だが、明日の方がよい。

よく似た意味を表すものに《igual ~ que》(〜と同等)があります。

Ella estudiaba **igual** por la mañana **que** por la tarde.

彼女は午前も午後も**同様に**勉強していた。

次に逆の意味を持つ《otro ~ que》(〜とは別の)を見てみましょう。

Al gobierno no le queda **otro** remedio **que** subir el impuesto sobre el consumo.

政府には消費税を上げる**しか**方法が残っていない。

これとほぼ同じ意味を《no más ~ que》で表すことがあります。

Mi hermano **no** compra **más** CDs **que** los de AKB48.

弟はAKB48のCD**しか**買**わ**ない。

この場合「より多くのCD」ではなく「他のCD」という意味で使われていることに注意です。

最後に《tanto ~ como》「〜も〜も」と2つの要素両方を並べて肯定する表現を見てみましょう。元々同等比較表現から派生したもののですが、tantoが変化しないのが特徴です。

En Galicia llueve **tanto** en verano **como** en invierno.

ガリシアでは夏**も**冬**も**雨が降る。

tantoが変化している場合は、本来の同等比較の用法と考えられます。次の文を比べてみましょう。

Aquí vienen **tanto** turistas europeos **como** asiáticos.

《tanto》は《turistas》に一致しない

ここにはヨーロッパの観光客**も**アジアの観光客**も**やってくる。

Aquí vienen **tantos** turistas europeos **como** asiáticos.

《tanto》は《turistas》に一致

ここにはアジアの観光客と**同じくらい**ヨーロッパの観光客がやってくる。

いかがでしたか。スペイン語は本当に表現力が豊かだと思いませんか。それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!

文 仲井邦佳



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 ―文法と演習―』(共著、同学社)などがある。

はじめてのスペイン語講座

第10回 現在分詞について



Hola. みなさん、こんにちは!

今回は、現在分詞についてご紹介したいと思います。

● 現在分詞とは、主に『私は～しているところです。』といったような、現在進行形の事象を表す場合に使われることで知られています。

現在分詞は動詞を変化させて作ります。まずは、変化の仕方を覚えてみましょう。

パターン1 語尾が《-ar》で終わる動詞の場合:

語尾の《-ar》を取って、語幹に《-ando》を付ける。

例 Hablarは、語尾の《-ar》を取り、語幹《habl》に《-ando》を付ける → **hablando**

パターン2 語尾が《-er》または《-ir》で終わる動詞の場合:

語尾の《-er》/《-ir》を取って、語幹に《-iendo》を付ける。

例 Comerは、語尾の《-er》を取り、語幹《com》に《-iendo》を付ける → **comiendo**

例 Vivirは、語尾の《-ir》を取り、語幹《viv》に《-iendo》を付ける → **viviendo**

気を
つけましょう!
¡OJO!

現在分詞を作る際には、例外もありますので、気をつけましょう。

例外1: 語幹が母音で終わる動詞の場合

語尾の《-ar》/《-er》/《-ir》を取ったあとの語幹が母音で終わる場合は語尾に《-yendo》を付ける。

例: Huirは《-ir》を取り、語幹《Hu》+《-yendo》 → **Huyendo**

Caerは《-er》を取り、語幹《Ca》+《-yendo》 → **Cayendo**

* Irは語幹が無いと考え、**Yendo**と変化させます。

例外2: 語幹に《e》や《o》が入る動詞の場合

語幹に《e》や《o》が入る動詞の中には、《e》が《i》に変わったり《o》が《u》に変わる場合があります。

例: Decirの場合《-ir》を取った語幹《Dec》の《e》が《i》に変化する → **Diciendo**

Dormirの場合《-ir》を取った語幹《Dor》の《o》が《u》に変化する → **Durmiendo**

注) その他、動詞 Reír は《e》がとれて→ **Riendo** に変化しますので覚えておいて下さいね。

#1

① それでは、上で作り方を覚えた現在分詞を使って、今度は現在進行形の文を作ってみましょう。

現在進行形の場合、主語が変化したとしても、現在分詞は変化しません。変化させなければいけないのは、現在分詞の前に持って来る動詞《Estar》です。

Estoy estudiando español.
スペイン語を勉強しています。

¡Mari!
¿Qué estás haciendo?
マリさん、何をしているの?

PRENDA
覚えましょう!

現在進行形 「主語は～しているところです。」の構文

[主語 + **ESTAR** + 現在分詞.]

主語に応じて活用させる

主語が変わっても変化なし

例

では、『(主語は) フラメンコを踊っているところです。』という例文で、練習してみましょう。

「フラメンコを踊る」は《bailar Flamenco》、つまり現在分詞に変化させるべき動詞は《bailar》です。

動詞《bailar》から語尾の《-ar》を取って、残った語幹《bail》+《ando》→ **bailando**

Yo	estoy
Tú	estás
Él / Ella / Usted	está
Nosotros	estamos
Vosotros	estáis
Ellos / Ellas / Ustedes	están

+ **bailando Flamenco.**



- ② 左ページの現在分詞の作り方をマスターしたら、現在進行形だけでなく、その他の現在分詞を使った表現も併せて覚えて使ってみましょう！沢山ありますが、ここでは代表的なものを2つご紹介します。
まず一つ目は、ある行為が続く時間を表す、[LLEVAR + 現在分詞]という表現です。

PRENDE 覚えましょう！

※「主語はー(期間/時間)の間～しています。」という表現

[(主語) + LLEVAR + 現在分詞 + 期間/時間.]

例 **Él lleva aprendiendo español 3 años.**

aprenderの現在分詞

期間/時間

(訳: 彼は、3年間スペイン語を学んでいます。)

※また上記の文章の語順を変えて、以下の様に言うことも出来ます。

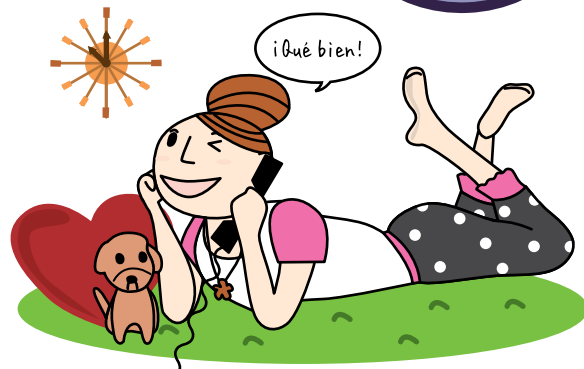
Él lleva 3 años aprendiendo español.

*期間/時間を表す部分を動詞《llevar》のすぐあとに持ってくる。
順番が変わっただけで、意味するところは同じ。
むしろこちらの方が良く使われているかも。*

Ella lleva una hora hablando por teléfono.

彼女は1時間電話で話しています。

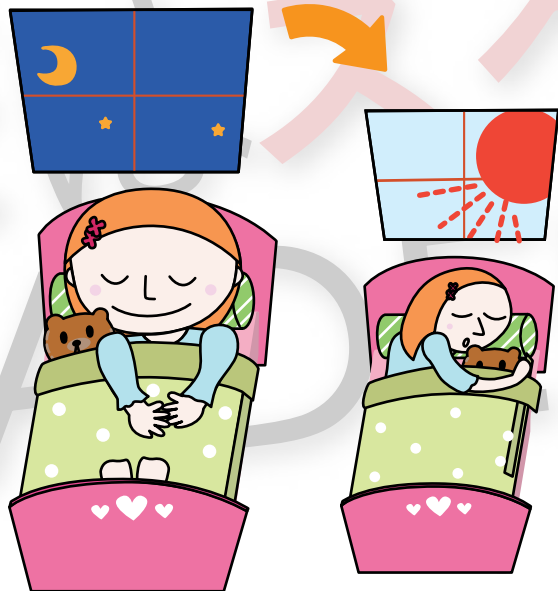
#2



次は、ある行為が継続する様を表す、[SEGUIR + 現在分詞]という表現も見えておきましょう。

Miki sigue durmiendo.

ミキちゃんは眠り続けています。



PRENDE 覚えましょう！

※「主語はーし続けています。」という継続した動作を表す表現

[(主語) + SEGUIR + 現在分詞.]

例 **Todavía sigue lloviendo mucho .**

lloverの現在分詞

(訳: まだ雨がたくさん降っている。)

※また動詞《SEGUIR》の代わりに《CONTINUAR》を使っても同じ意味になります。

Todavía continúa lloviendo mucho.

上で挙げた表現の他にも、[IR+現在分詞(～していく)], [VENIR+現在分詞(ずっと～してきている)]などがありますので、使ってみるようにしましょう。

最後に、左ページ、現在進行形の用法についてもう一つ補足説明があります。

現在進行形とは、原則的に今、起こっていることを表しますが、実は最近のことを話す場合にも使うことが出来ます。例えば、長い間会っていなかった知人と久しぶりに話して、近況を尋ねるような時に、「¿Qué estás haciendo últimamente?(最近は何をしているの?)」と聞くこともできます。この時は、その瞬間に行っているのではなく、近況を尋ねているので、答え方としては「Estoy trabajando en el ayuntamiento. (市役所で働いています。)」や「Estoy estudiando ingeniería mecánica en la universidad. (大学で機械工学を学んでいます。)」などになります。



un descanso....

上で学んだ、《llevar + 現在分詞》は、よく使われる表現なので、是非覚えておかれると便利ですが、この表現に関係して、一つ注意すべき点があります！

それは、否定形「ー(期間/時間)の間～していない。」の作り方で「否定形なんて、動詞の前にNOを付けるだけだから簡単！」なんて思っていないですか？確かに原則として否定形は、動詞の前にNOを付ければよいのですが、この場合には当てはまらないので、注意が必要です。では、従来の否定形の作り方を使うとどのような意味になるのでしょうか？

Él no lleva 3 años aprendiendo español.

※実際のところ、このような表現で伝えられる情報は非常に限られているため、使われることはあまりありません！

× 彼は3年間スペイン語を勉強していない。

○ 彼は3年間スペイン語を勉強しているのは3年ではない。

※つまり、彼がスペイン語を勉強している期間は、1週間かもしれないし、5年かもしれないが、3年ではないということを示しています。

このように、いつもの方法では、「ー(期間/時間)の間～していない。」を表すことは出来ません。ここで使うべき表現は「llevar + sin + 不定詞」です。早速使ってみましょう！

Él lleva 3 años sin aprender español.

Él lleva sin aprender español 3 años.

※彼は3年間スペイン語を勉強していない。

※時間(例: 3年など)を表す表現はllevarのすぐ後に置く場合と、不定詞の後に置く場合の2通りがあります。

どちらも便利な表現ですので、肯定・否定両方を覚えてどんどん使ってみて下さいね。

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

- ・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分
- ・自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F
TEL: 06-6346-5554 • FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelante.jp • http://www.adelante.jp

イラスト: 田中 文子

Playero es una palabra muy española y quizás de las más utilizadas en esta época, se puede utilizar como adjetivo “ser un playero/a” o como sustantivo “el playero o la playera”

Playero está relacionado con la playa, algo muy presente en el territorio español. Nada menos que 7500 kilómetros de playa rodea la casi totalidad de España. En total 3000 playas del Mediterráneo, el Cantábrico y el Atlántico.

La playa forma parte de la vida social española, es toda una institución en un país en el que el clima permite disfrutar del sol y de buenas temperaturas desde marzo hasta octubre. La playa es un lugar de ocio, de encuentro, de paseo y que cualquier estudiante extranjero de español y de cultura española debe conocer, y con ello términos como chiringuito, hamaca, playero

Playero (海の、海好き)という言葉はとてもスペインらしい言葉で、恐らくこの時期に最も使われる言葉でしょう。形容詞として、“ser un playero/a”または名詞として“el playero o la playera”という表現が使われます。

“Playero”とは“la playa”海に関連するもので、スペインでは良く使われます。7500Kmにわたる海岸がスペインの国土を囲んでおり、国内には地中海、カンタブリア海、大西洋に全部で3000もの海岸があります。

海はスペインの生活に欠かせないもので、太陽と温暖な気候を3月から10月まで満喫できる国ならではの。海はレジャーの場所、人々が集まる場所、散歩をする場所で、chiringuito, hamaca, playeroなどの用語など、海にまつわるスペイン語のシーンは、スペイン語とスペインの文化を学ぶ外国人学生の皆さんにとっては是非学ばべきテーマです。

1. Amplía tu vocabulario playero básico 海のボキャブラリーを増やしましょう

A	B	C	D	E	F																				
G	H	1. 下記の1-19のボキャブラリーにあう絵(A-S)をそれぞれ選んでください。 1. Relaciona cada palabra con un dibujo (A-S) <table border="0"> <tr> <td>1. ola</td> <td>11. chiringuito</td> </tr> <tr> <td>2. arena</td> <td>12. nevera</td> </tr> <tr> <td>3. bikini</td> <td>13. cubo y pala</td> </tr> <tr> <td>4. crema solar</td> <td>14. bolsa de playa</td> </tr> <tr> <td>5. toalla</td> <td>15. gafas de sol</td> </tr> <tr> <td>6. pelota</td> <td>16. chanclas</td> </tr> <tr> <td>7. quemadura</td> <td>17. tumbona</td> </tr> <tr> <td>8. bucear</td> <td>18. bañador</td> </tr> <tr> <td>9. gorra</td> <td>19. paletas</td> </tr> <tr> <td>10. sombrilla</td> <td></td> </tr> </table>		1. ola	11. chiringuito	2. arena	12. nevera	3. bikini	13. cubo y pala	4. crema solar	14. bolsa de playa	5. toalla	15. gafas de sol	6. pelota	16. chanclas	7. quemadura	17. tumbona	8. bucear	18. bañador	9. gorra	19. paletas	10. sombrilla		I	J
1. ola	11. chiringuito																								
2. arena	12. nevera																								
3. bikini	13. cubo y pala																								
4. crema solar	14. bolsa de playa																								
5. toalla	15. gafas de sol																								
6. pelota	16. chanclas																								
7. quemadura	17. tumbona																								
8. bucear	18. bañador																								
9. gorra	19. paletas																								
10. sombrilla																									
K	L	M	N																						
O	P	Q	R	S																					

2. Adivinanza playera 海のなぞなぞ

2. ①から⑭のそれぞれの質問の答えをa. からn.の単語から選んでください。

2. Relaciona cada adivinanza con una palabra.

- ① Sin ella, me quemo la cabeza y la frente...
- ② Si son altas, me dan miedo
- ③ Gracias a ella, puedo beber mi coca cola fresquita
- ④ Es la mejor forma de poder admirar los peces y el fondo del agua
- ⑤ Te pasa por no poner crema protectora
- ⑥ Uno sirve para coger arena, el otro para guardarla y hacer castillos en la orilla
- ⑦ Debajo de ella, hace más fresco
- ⑧ En él puedo comer sardinas y beber cerveza
- ⑨ En ella meto todas las cosas que necesito para estar en la playa
- ⑩ Con ellas puestas no me quemo los pies
- ⑪ Con ellas puedo jugar en la orilla
- ⑫ La utilizo para tomar el sol o después de bañarme
- ⑬ A las chicas les encanta ponérselos para tomar el sol
- ⑭ A veces los playeros duermen la siesta en ellas

- a. tumbona
- b. chiringuito
- c. quemadura
- d. olas
- e. chanclas
- f. cubo y pala
- g. toalla
- h. gorra
- i. sombrilla
- j. nevera
- k. bikini
- l. bucear
- m. paletas
- n. bolsa de playa

clic



amar, vivir y sentir en español

スペイン語 コース セビリア カディス



**International
House**
Sevilla y Cádiz

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス

Email: japan@clic.es (日本語でどうぞ)

www.clic.es



3. Vamos a la playa, calienta el sol

夏の歌“海へ行こう、太陽が暑い”

夏ならではの歌無しには海も夏も楽しめません。
www.youtube.comで“Eva María se fue”というスペイン語の夏の歌を探して、曲を聴きながら下記の歌詞に足りない単語を加えて完成させて下さい。

No hay playa ni verano sin canciones típicas, te animamos a ir a www.youtube.com, buscar la canción “Eva María se fue” y completar las letras con nuestra ayuda

Eva María se fue buscando el sol en la playa
con su maleta de piel y su bikini de rayas

Ella se y solo me dejó recuerdos de su ausencia
sin la indulgencia Eva María se ...

Paso las noches así en Eva María
Cuando no dormir miro su fotografía

Que bonita está en el mar tostándose en la arena
mientras yo la pena de sin su amor

Qué ... hacer qué voy hacer

Qué voy hacer si Eva María se fue

Qué voy hacer qué voy hacer

Qué voy hacer si Eva María se fue

..... puedo vivir pensando si ella me

si necesita de mi y si es amor lo que

Ella se marchó y solo .. dejó recuerdos de su ausencia
... la menor indulgencia Eva María se fue

Qué voy hacer qué voy hacer

Qué voy hacer si Eva María se fue

Qué voy hacer ... voy hacer

Qué voy hacer si Eva María se fue

Eva María se fue el sol en la playa
Eva María se fue buscando el sol en la playa
con su de piel y su bikini de rayas
con su maleta de y su bikini de (bis)

4. Sopa de letras

スペイン式クロスワードパズル

右のリストに表示されている単語を下のクロスワードから探してください。尚、これらの単語は左右、上下にきちんと書かれているものもあれば反対方向に書かれているものもあります。

Encuentra y señala todas las palabras de la lista situada a la derecha. Ten en cuenta que las palabras pueden aparecer al derecho al revés en horizontal y vertical.

O	L	C	U	B	O	A	N	U	D
L	E	R	R	R	I	L	A	P	O
A	R	E	N	A	E	C	A	L	A
D	U	M	A	Y	A	N	L	A	S
U	B	A	Ñ	O	R	A	L	Y	B
I	N	I	K	I	B	H	A	A	U
L	E	F	R	U	S	C	O	S	C
A	R	B	M	O	S	A	T	E	E
R	I	A	T	O	L	E	P	T	O
A	R	A	C	S	A	M	V	A	N

BIKINI
SAL
PELOTA
CREMA
SURF
CHANCLA
ARENA
BAÑO
OLA
CALA
RAYO
CUBO
MÁSCARA
DUNA

Claves:

Ejercicio 1: 1.-Q, 2.-E, 3.-G, 4.-L, 5.-C, 6.-S, 7.-A, 8.-I, 9.-O, 10.-B, 11.-K, 12.-P, 13.-M, 14.-H, 15.-N, 16.-J, 17.-D, 18.-F, 19.-R

Ejercicio 2: ①-h, ②-d, ③-j, ④-l, ⑤-c, ⑥-f, ⑦-i, ⑧-b, ⑨-n, ⑩-e, ⑪-m, ⑫-g, ⑬-k, ⑭-a

Ejercicio 3: marchó, menor, fue, pensando, puedo, bañándose, siento, vivir, voy, Apenas, quiere, siente, me, sin, qué, buscando, maleta, piel, rayas

Ejercicio 4:

O	L	C	U	B	O	A	N	U	D
L	E	R	R	R	I	L	A	P	O
A	R	E	N	A	E	C	A	L	A
D	U	M	A	Y	A	N	L	A	S
U	B	A	Ñ	O	R	A	L	Y	B
I	N	I	K	I	B	H	A	A	U
L	E	F	R	U	S	C	O	S	C
A	R	B	M	O	S	A	T	E	E
R	I	A	T	O	L	E	P	T	O
A	R	A	C	S	A	M	V	A	N

スペインのお勧めバル／レストラン

第4回 SIDRERÍA AUZMENDI SAGARDOTEGIA (シードレリア・アウスメンディ・サガルドテギア)

スペイン北部ナバーラ。ここでよく飲まれるアルコール飲料はシードラ(SIDRA)であろう。シードラはアストゥリア産も有名であるが、ナバーラ北部産シードラはアストゥリア産より甘味が少なく酸味が強いと言われている。シードラを飲むにはシードレリアに行くことをお勧めする。シードレリアとは、昔シードラ生産業者がその販売(主に3月)のためにレストラン関係者を呼び、シードラを飲ませながら簡単な食事をさせていた施設である。現在、多くのシードレリアはレストランとして一般人にその場を解放しているが、施設内にシードラのクペラ(KUPERA)と呼ばれる大きな樽があるのが特徴である。ナバーラ州の首都パンプロナにあるシードレリアAUZMENDI SAGARDOTEGIA(アウスメンディ・サガルドテギア)はその典型であろう。シードラを頼むと空のグラスが運ばれてくる。後は、自分でこのクペラに近づき好きなだけ注ぐだけであるが、その際にはちょっとしたコツが必要。クペラごとに違う味のシードラが味わえ、何杯飲んでも同じ料金、そしてその注ぎ時の面白さにたくさん飲んでしまうのは簡単に想像できる。シードラには北部でよく食されるバカラオ(BACALAO=タラ)料理がよく合う。

On egin (オン・エギン(バスク語)=¡Que aproveche!)

文・写真 田中富子



上:クペラから注ぐ時はちょっと緊張。
右:パンプロナ中心部から徒歩で行くことができる。
下:Tortilla de bacalao (タラのオムレツ)に舌鼓!



- 住所: C/ Joaquín Beunza 17, Pamplona
- 電話: +34 948 38 46 70
- <http://www.sidreriaauzmendi.com/>

注意:上記情報は、2012年8月時点のもので変更する可能性があります。



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォーダー、米通信機会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。

2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アングラシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳、留学コーディネーター等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。

www.creapasion.com/ / <http://spain.fc2web.com/>

西宮市国際交流協会

スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介

去る7月8日、西宮市国際交流協会主催の「スペイン語おしゃべりの会」が開催されました。今回は、スペイン・バレンシア出身で神戸市在住の Francisco Torregrosa Puerta氏を講師に迎え、2000年以上の歴史のあるバレンシア地方全般について、映像を駆使して紹介して頂きました。

パエリア発祥の地、バレンシア。この地方が米の産地であることは有名ですが、日本と同じ水田稲作が行われていることを知って驚かれた人が多かったようです。さらに印象的だったのは長い歴史の中でアラブの影響が食べ物の中にも色濃く残っていることでした。また、クラシックな様相の美しい歴史的建造物と同時に、まるで未来の建物の様な、超モダンな近代建築も多く紹介され、同地方の魅力の奥深さを窺い知ることができました。

前号の本誌特集記事がバレンシアであったことや、講師が講演内容を7枚ものレジュメにして配布してくれましたので、参加者の関心と理解はより深まったものと思います。

さて、この会に嬉しいハプニングがありました。1年前よりバレンシアにサッカー留学し、丁度一時帰国していた西宮市の11歳の少年が、飛び入りで参加してくれたのです。私は、この少年に1ヶ月だけスペイン語の基礎の基礎を教えていたのですが、現地の国際校に通いながらサッカーの訓練を受けている間に驚くほどスペイン語が上達していました。可愛い子には旅をさせよと言いますが、まさにその格言が真実であることが証明された気がしました。

今回は9月16日(日)にスペインの「Castilla y León地方を巡る、その歴史と文化」というテーマでこの地方出身の方にお話頂く予定です。

文・写真提供 谷善三



飛び入り参加してくれた
小さなゲストと共に。

資料や映像を豊富に使ってバレンシアの魅力を紹介して頂きました



スペイン語おしゃべりの会 次回開催予定

日 時: 2012年9月16日(日) 午後2:00-3:30

場 所: 〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4階
(公財) 西宮市国際交流協会 会議室

ゲスト: Jesús Ángel Martín Sánchezさん(スペイン出身)

参加費: 500円 / 定 員: 25名(先着順)

お申し込みはお電話、FAX、E-mailにて(8月29日より受付開始)

お電話: (0798)32-8680 / FAX: (0798)32-8678

E-mail: nia930@sound.ocn.ne.jp

RUMBO AL SOL

スペインきまぐれ日記

Vol.3 地中海に浮かぶ美しい島＜メノルカ島＞

みなさん、「メノルカ」という島をご存じでしょうか？今回は、スペインのバレアレス諸島の1つ、メノルカ島についてご紹介します。この島は、バレアレス諸島の中でも東に位置しており、バルセロナから南東に約200km程度、飛行機で約1時間程度で行くことのできる自然豊かな美しい島です。

メノルカの見所は、なんといっても透き通った美しい海！島には約50ヶ所程度のビーチがあり、特に島南部では、白い砂浜に透明で澄んだエメラルドグリーンの海が広がっています。また、メノルカには入り江がたくさんあり、自然の岩で囲まれた、小さくて美しいビーチがいくつも点在しているのが特徴です。

そして海だけに限らず、メノルカ各地には先史時代の石の遺跡が多く残っています。ドライブで自然を満喫しながら遺跡巡りするとおもしろい遺跡に出会えるかもしれません。



穏やかに透き通った海。メノルカにはこのような小さなビーチがたくさんあります。



写真左：巨大な石の遺跡Taula。巨人用テーブルのような形です。どのように積み上げたのかとても気になりますね。写真右：巨大なエンサイマダの中にはクリームやチョコレート、Cabello de Ángel（かぼちゃの甘煮）が入っています。

最後に、メノルカには美味しいものがたくさんありますので、こちらもお忘れなく！

エンサイマダといううずまきデニッシュパン風お菓子（直径20cm程度はあります！）や、豚肉・パプリカ・胡椒で味付けられたソブラサードというソーセージや水牛からできたマオンチーズはとても有名です。きっとメノルカの素敵な思い出がさらに増えることと思います。メノルカの観光シーズン（主に7月、8月）を外して観光してみると、島の静かで素朴な雰囲気も楽しむことができます。機会があれば、ぜひバルセロナから少し足を伸ばしてみてください。

（文・写真 山下智子）

メノルカ島のとある道端で見つけた標識。「牛とカタツムリに注意？」



山下智子

やましたともこ / Tomoko Yamashita

大阪市出身。

旅先の沖縄で知り合ったスペイン人男性と縁があり、2008年結婚。約3年間の日本での生活の後、2011年9月、思い切って夫と共にスペインに移住。現在バルセロナ近郊在住。趣味は、安くて美味しいものを食べることと旅行すること。スペインでの日々の発見を伝えます！

“ESPAÑA FOTO A FOTO”

CONCURSO FOTOGRAFICO スペイン写真コンクール



BASES

- 1.- Podrán participar aficionados y profesionales de la fotografía de cualquier nacionalidad, mayores de 18 años.
- 2.- Se admitirá una sola obra del tema elegido cada trimestre por participante, en color o en blanco y negro. Las obras han de ser de autoría propia y no pueden presentarse fotografías que hayan sido premiadas en otros concursos.
- 3.- Las medidas serán de 1024 píxeles por 760 píxeles y se enviarán por correo electrónico a info@acueducto.jp hasta finales de octubre, 2012. No se admitirán obras en papel.

Serán imprescindibles los siguientes datos:

1. Nombre y Apellidos del autor
2. Nacionalidad
3. Ciudad de residencia
4. Título de la foto
5. Edad
6. Email

- 4.- La organización se reserva el derecho de admisión de obras que puedan ser ofensivas o inciten a racismo, terrorismo, etc.
- 5.- Las fotos estarán expuestas en la página web www.acueducto.jp y serán cedidas por el autor para su difusión en la red, publicación en la revista acueducto y para una probable exposición anual de las mejores fotos. Nunca se hará un uso comercial de las mismas.
- 6.- Se premiará una foto elegida por los miembros de la revista acueducto.

La foto ganadora será publicada en la siguiente edición y el autor recibirá un regalo exclusivo de ACUEDUCTO.

【応募要項】

1. 18歳以上であればプロ・アマ、出身地問わずどなたでもご参加できます。
2. 各自自由にお選びいただいたスペインに関するテーマで1作品のみ受け付けます。カラーでも白黒でもどちらでも結構です。ご自身の作品に限ります。また、他のコンテストで受賞された作品はご応募できません。
3. 写真のサイズは、1024ピクセル×760ピクセルにしてください、2012年10月31日までに、(info@acueducto.jp) までご応募ください。プリント写真は受け付けておりません。

下記の必要事項を添えてご応募ください。

1. 氏名
2. 国籍
3. お住まいの都市
4. 写真のタイトル
5. 年齢
6. メールアドレス

4. 公序良俗に反するもの、人種差別やテロ行為を駆り立てるような作品の応募は許可なく取り消します。
5. 写真はウェブページ (www.acueducto.jp) にて公開される予定です。ネット上の公開、雑誌『acueducto』への掲載、優秀作品の展示会などにおいて、無償で利用させていただきます。商業目的での使用は一切いたしません。
6. 弊誌編集部にて、入賞作品一点が決定されます。

入賞作品は次号に掲載され、入賞者には賞品が贈られます。

¡CAMPEONES DE EUROPA!

España entra en la historia del fútbol al ganar consecutivamente dos Eurocopas (2008 y 2012) y entre medias un Mundial (2010).

La selección española se impuso 4-0 a Italia en la final de Kiev, dando una lección de manejo y posesión del balón, en un juego de toque rápido. Los golazos de Silva, Alba, Torres y Mata fueron el culmen del mejor partido jugado en el torneo por el equipo de Del Bosque. **“Con trabajo, todo se consigue”** manifestaba el entrenador levantando la copa. Y es que el seleccionador ha demostrado con creces su buen hacer y su sabio liderazgo.

Esta victoria ha supuesto un respiro para muchos españoles, que durante unos días han festejado la hazaña, dejando en segundo plano su preocupación ante la negativa situación económica.

Evoquemos las palabras de Vicente del Bosque y colaboremos todos como un gran equipo para hacer que España salga pronto de esta crisis ¡por goleada!

スペインは2008年に続き、2012年のUEFA欧州選手権で優勝し、また2010年のW杯で優勝をおさめたことにより、サッカー史上に名を残しました。

スペイン代表は、キエフ（ウクライナ）で行われた決勝戦で、ボールを持って動かすというサッカーのお手本を見せながら、速いスピードで試合を展開し、イタリア代表に4-0で勝利しました。シルバ、アルバ、トレス、マタ各選手の素晴らしいゴールは、ビセンテ・デル・ボスケ監督が率いる代表チームがトーナメント戦において戦った最も素晴らしい試合のクライマックスとなりました。目覚ましい成果を上げ、抜群のリーダーシップを発揮した監督は、『**努力すれば、必ず報われる**』と、優勝カップを掲げながらコメントしました。

スペインでは、不利な状況にある自国経済への憂いをつかの間忘れて、数日間スペイン代表の偉業を盛大に祝いました。この勝利は、多くのスペイン人に安堵を与えたのではないのでしょうか。

デル・ボスケ監督の言葉を思い起こし、スペインがこの経済危機から脱出するため、チームのように一丸となって協力していきましょう！



Jesús Martín
2012

イラスト Jesús Martín Sánchez
jesusmartinsanchez.com

アンダルシアへ フラメンコギター留学記・その1

文・写真 関根彰良

「忍者とお付き合いするようなものでしょ」

2012年6月初頭、横浜。私は日頃からお世話になっている楽器工房tmpにいた。スペインで入手したギターをチューンナップ・調整してもらうためだ。

工房の責任者である松下達也氏はかつて有名楽器メーカーに在籍し、国内外の数多くのミュージシャンにギターやベースを提供してきた。そんな彼もフラメンコの世界とは深く関わったことがないという。フラメンコのアルティスタ達の話になり、彼らの生きる世界の特殊性に普通の人たちは戸惑うという話の流れの中で松下氏が語ったのが冒頭の言葉だ。

「でもやはり、それだからこそあの音楽は魅力的ですよなあ。」
彼は付け加えた。

ロックでギターを始め大学に入ってジャズに出会い、その後クラシックやボサノバ等の音楽も経験した。そんな自分が昔から憧れ、しかし他のジャンルのギターと「あまりに違いすぎる」ために手を出すのを躊躇っていたのがフラメンコギターである。友人の紹介で師匠・山崎まさし氏の門を潜ったのは5年ほど前のこと。フラメンコギター独特の演奏技術について知りたいというちょっとした好奇心から習い始めたのだが、コンパス（リズム）をより深く理解するためにバイレ（踊り）やカンテ（唄）のことも学び出し、次第にフラメンコのCDが増え、そのうちプロのアルティスタの方々と一緒にステージに立つ機会も頂き、気が付いたら「スペインに行ってくる」と公言していた。これがフラメンコの持つ魔力なのだろうか。

「ちょっと、こっちに来てくれ！」

3月中旬、アンダルシア地方西部、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラのサンチアゴ地区。古くからヒターノ達が住み数多くのアルティスタを輩出してきた、いわば「フラメンコの揺りかご」。昨年来日した際に知り合ったギタリスト、チャノ・カラスコのクラスはこの地区にある彼の実家の居間で行われた。彼の声を聞きつけて、父親と弟がやってきた。

「アキラ、弾いてしろ。」

習ったばかりの一節を弾き始めるとチャノ達が3人でバルマ（手拍子）を叩きはじめる。

「カンタオーラも！早く！」

隣のキッチンで昼食の準備をしていた母親までもが呼び出され、ブレリアを歌い始めた。

私は緊張しっぱなしだったが、よく考えると贅沢なクラスだ。チャノを除いてプロのアルティスタではないが、やはりフラメンコを知っている。築200年の歴史あるこの家で、またこの地域のいたるところで、このような光景が幾度となく繰返され、フラメンコは引き継がれ発展してきたのだろう。

クラスの後、通り道だから送っていくと、彼は私を車に乗せてくれた。

「ディエゴ・カラスコは俺の伯父さんさ。すぐそこに住んでるよ。」

「ここでブレリアが生まれたんだ。」

サンチアゴを案内する彼の口調からは、ある種の誇りのようなものが感じられた。連綿と引き継がれてきた、一族の誇り。

「違うぞ！」

弾けるようになるまで練習してろ、とレッスンをほったらかして隣の部屋でゲームに興じているかと思いきや、彼の耳はしっかり私のギターに向いていた。

ヘレス中心部から徒歩で10分ほど、ピノ通りにある小さなバル、テリオ・グレゴリオ。ヘレスのフェスティバルで聴いて大好きになったギタリスト、マヌエル・バリージャのクラスでの一コマである。

滞在期間等の理由により回数や時間が限られているクラスの場合、その場で消化できなくてもとりあえず沢山のことを教えてもらって後で録音を聴きながらゆっくり復習するという手もある。しかしマヌエルの場合は違った。一音一音の弾き方から丁寧に教え、私がしっかりその通りに弾けるようになるまで次に進ませてくれない。こっちは必死になって喰らいついて行った。

「こいつは自分独自のものを創り出しているからな」

マヌエルについて、バルの主人であるグレゴリオはこう言った。実は彼を含め、店員もみなバリージャ一家。家族経営のバルなのだ。マヌエルの伯父は名ギタリスト、バリージャ・デ・ヘレス。昨年亡くなったモライート・チーコとも血縁関係にあるそう。グレゴリオもバルメロ（バルマの叩き手）として数多くのCDや公演に参加している。

ここでもやはり飛び入りのカンタオールやバルメロ達がレッスンを邪魔・・・いや、彩る。ジャズを弾く日本人がフラメンコを習いに来た、とみんな珍しがっていた。

「どの唄も全部同じだよ」

唄のメロディが「落ちる」音を聴き間違え別の和音を弾いてしまった私に、カンタオール、ホセ・メンデスはこういった。

私がこれまで経験した音楽の大多数は、小節線で区切られて長さが決まっている。しかしフラメンコの唄は違う。唄い手の節回しによって伸びたり縮んだりするのだ。伴奏者であるギタリストはメロディの終わるタイミングとその音（＝「落ちる」音）をよく聴いて、それに合った和音を的確に選ばなければならない。和音の種類や進行のパターンはある程度限られているとはいえ、自分にとって最も難しいことのひとつだ。

どの唄も同じ、というのは、厳密に言えば間違っているかもしれないが、確かに良く聴いてみるとどれもよく似ている。それに、唄を楽しむ、という姿勢で伴奏をすると、落ちる音やその落ちた先の和音が自然と聞こえてくるのがわかった。普段ジャズなどを演奏している時は自然にできていることだ。とにかく慣れることが、そして唄を愛して楽しむことがカギだと感じた。

セントロにあるタバコ（飲む屋）の店内風景。
1杯1ユーロへと安価で、平日の昼間から人々でぞった返す。



ギタリスト、マヌエル・バリージャ氏と。
全5回のレッスン終了後、バルでカフェを飲みながら日本の話に花が咲いた。



春の陽光に映える色鮮やかなオレンジの街路樹。
アンダルシア・フラメンコセンター前にて。

クラス終了後、「ちょっと一杯行こうか？」とホセ。彼の行きつけのバルに入り、一杯のつもりが……。そこに居合わせた仲間も加わり、昼間からみなビールでご機嫌。即興の唄ありギターあり、ちょっとしたフィエスタが始まった。

アンダルシアに時計はない、と感じるのはこういう時だ。あの陽光が、すべてを解決してくれる。

ヘレスは小さな街だ。セントロ（中心部）の端から端まで、2～30分もあれば歩いて移動できる。街中で知り合いに出くわすこともしばしばだ。

季節は春。街の至る所に植えられたオレンジの木が、緑と橙の鮮やかなコントラストを映し出す。建物は夏の暑さを避けるために白色に塗られたものが多い。他には黄色やピンクなど、日本ではあまり見ない色をした建築もあった。

2月末、到着した日は初夏のような暑さだったが夜になるとかなり冷え込む。内陸なので寒暖の差が激しい。しばらく冬の上着にお世話になった。

ヘレスでは毎年2月下旬～3月上旬頃にフラメンコ・フェスティバル

が開催される。今回のフェスティバル期間中、日本を含め様々な国からたくさんの方がヘレスに来ていた。私の知った限りでも、ドイツ、フランス、ロシア、オーストリア、イスラエル、ニュージーランド、台湾…などなど。フラメンコは世界で愛されているのだと実感した。日中はアルティスタ達によるクラスが開かれ、夜は彼らによる舞台公演が催される。メイン会場以外の小さなバルでも様々なコンサートが行われており、街全体が祭りの雰囲気包まれていた。

フェスティバルが終わると街は急に静かになり少し寂しくなった。しかし週末になるとあちこちのペーニャ（フラメンコ愛好家たちによるサークル）で色々なコンサートが開かれ、私は足繁く通った。アルティスタが素晴らしいのはもちろんだが、見に来ているお客さんたちがこれまた素晴らしい。いいタイミングで格好いいハレオ（掛け声）をかけるし、フラメンコへの愛が伝わってくる。本場に来て良かったと思ったことの一つだ。

ヘレスではバイレのクラスに顔を出してギターを弾かせてもらった。チキ・デ・ヘレス、アナ・マリア・ロベスのお二人に感謝したい。

4月中旬、一か月半滞在したヘレスに別れを告げ、私は今回の滞在の第二の目的地であるセビージャへと向かった。

（つづく）



関根彰良 せきねあきら / Akira Sekine

ギタリスト

1978年5月5日生まれ。千葉県出身。幼少の頃よりクラシックピアノを始める。12歳でロックに興味を持ちギターを手にする。東京大学入学後ジャズに出会い、同大のジャズ研究会に所属しながらプロとしての演奏活動を開始する。文学部美学芸術学専攻を卒業。

2002年から07年まで西尾健一(tp)グループに在籍、アルバム『Go Ahead, Have Fun!』に参加し全国をツアーする。2009年夏にはNYで活躍中のAnat Cohen(cl, sax)の日本ツアーに参加。これまでの主な共演者は、前田憲男(p)、村上ポンタ秀一(ds)他多数。

クラシックギターを井上學、フラメンコギターを山崎まさし各氏に師事。

2011年HARU RECORDSよりファーストアルバム『FUZZ JAZZ』をリリース。発売記念全国ツアーを行う。現在、自己名義のソロ/トリオでのライブをはじめ、様々なセッションやレコーディング等、ジャズを中心とした幅広いジャンルで活動中。公式HP <http://www.akirasekine.com/>

ライブ情報：9/8(土)東京・大塚DONFAN 横山亜弓(baile) 永瀧三貴生(cante) 関根彰良(guitarra) 20:00- ¥4,000 - (問)03-3945-0529 <http://www.009.upp.so-net.ne.jp/donfan/>

モンポウ

～ 響きに魅入られた作曲家 ～

「ピアノの詩人」といえば?・・・こう尋ねられて、あなたは誰の名を挙げるだろうか。「それはやっぱり、ショパンじゃない?」これは模範解答、誰もが認める組み合わせ。「詩的という意味なら、シューマンでは?」同感、確かに。しかし、そこでちょっと控え目に、「モンポウもいいよね・・・」なんてつぶやいたとしたら、あなたはピアノ通として一目置かれる存在になる、かもしれない。

フェデリコ・モンポウ。奇しくもショパンと同じ名(「フェデリコ」は、「フレデリック」のスペイン語名)の彼は、発展著しい19世紀末のバルセロナに生まれたカタルーニャの人である。作曲に関してはほぼ独学で、ギターのための《コンポステラ組曲》や愛すべき歌曲集、「20世紀に書かれたもっとも美しいオラトリオ」と呼ばれる《インプロペリオス(叱責)》などの作品があるが、彼の音楽が持つ魅力は、やはり数多くのピアノ曲において最大限に発揮されていると言っていいだろう。そしてその世界は、「誰にも似ていない」——「孤高の作曲家」と呼ばれる所以だ。

もっとも、後世に名を残す大作曲家たちの音楽はみな、それ自体が名刺のようなもので、それぞれに自分だけの個性が刻まれているわけなのだが、「ピアノ音楽」をある観点からみるならば、19世紀ロマン派を代表する「ピアノの貴公子」ショパンとリストが、当時著しく向上した楽器の性能を生かしてピアノの可能性を開拓し、また19世紀末から20世紀前半にかけては、ドビュッシーやラヴェルがさらに新しい響きを創りだして、もはや「ピアノ」という宝箱の中身は出つくしたかと思われていた。

そんなとき、まだ聴かれたことのないピアノの秘密をそとと差しだしてみせたのが、モンポウなのである。それも、ごくシンプルなやり方で。

彼のピアノ曲を聴いたフランスの高名な批評家ヴェイエルモーズは、驚きをもってこう紹介した。

「フェデリコ・モンポウは、ピアノの詩人である」——

私が初めてモンポウを聴いたのは、世界的なスペイン人ピアニストA.デ・ラローチャのCDだったと思う。それまで持っていた「スペイン音楽」のイメージとは違う、耳を澄まさずにいられない不思議な音楽。気になって、楽譜を手に入れ、1995年のデビューリサイタルでは、初期の作品《内なる印象》から何曲かをプログラムに入れてみた。独自の感覚で選ばれている、感じやすい音。静かだった水面に波紋が広がるよう

な和音の響き。そして、「音と音のあいだ」の豊かさが、とても新鮮だった。それらに俳句や墨絵にも通じるものを感じた私は、「モンポウの音楽って、日本的な感性に近いものがあるのかしら?」と思ったりしたものだ。

そのうち、彼が生み出した独特の「響き」には、「鐘の音」が大きく関わっていることを知る。モンポウの母(フランス人)が生まれたダンコース家は、「音楽的な音色」の保証を謳う鐘製造の名門で、パリのノートルダム大聖堂やモンマルトル聖心教会に鐘を納めていたほどだった。モンポウは幼い頃、祖父の鐘造工場に遊びに行くと、時間の経つのも忘れて、その広い空間で鐘の倍音が共鳴し混じりあっていくさまにじっと耳を傾けていたのだという。これが、モンポウの感性に深く刻まれることになった「音の原体験」である。

ここで、ちょっと寄り道。そもそも、ピアノとは何か?「楽器の王様」と呼ばれるのは、その大きさのみならず、オーケストラのほぼすべての音域を1台でカバーできるから。外見は

鍵盤楽器だけれど、上から覗くと、たくさんの弦が張ってある弦楽器。中の仕組みを見れば、鍵盤に連動して動くハンマーが弦を打つことで音が出るので、打楽器でもある。モンポウのピアノのとらえ方はたぶん、この「打弦」—— 金属弦を打って音を響かせる、というイメージが重要な核になっているのだと思う。

10年ほど前だったか、バルセロナで、モンポウの末亡人カルメン・ブラーボ女史による、モンポウのピアノ作品の講習会が開催された。



フェデリコ・モンポウ(1893-1987)

下山静香のCD ～スペインの響き～



1st album

「アランフェス～
下山静香ピアノ・リサイタル」
ART-3071 2,900円



2nd album

「Fandango Shizuka plays
イベリアン・パロック」
ART-3088 3,500円



4th album

「Homenaje a Isaac Albeniz
Recuerdos de viaje-Tango」
MF22803 (Molto fine) 2,600円

「5th album モンポウ 前奏曲集 & プーランク 夜想曲集」
12月リリース予定

故カルメン・ブラーボ女史と マーシャル音楽院(バルセロナ)にて

彼女はその頃すでに80歳を超えていらしたが、とてもエネルギッシュで、全力投球の集中力でレッスンなさり、何時間かすると「ちょっと休憩」とピアノを離れ、煙草をスパスパ……。品のよさと豪快さがほどよくブレンドされた、まさに「かつていいスペイン女性」だった。ピアニストだったカルメン女史は、モンボウの音楽がもつ素晴らしさ、その真の姿を伝えたいという強い思いをもって、精力的に活動しておられた。講習会では、実技レッスン以外にも、テレビのドキュメンタリー番組に出演した折のモンボウの映像を見せてくれたり、彼はとてもシャイだったけれど、同時に、人のなかにいることやユーモアが大好きだった、などといったエピソードを聞かせてくれたりした。そして、そんな話の端々から、彼女がどんなにモンボウを愛していたかが、ひしひしと伝わってきたのだった。

レッスンで一番印象的だったのは、「流れ星のしっぽをつかまえる」という表現。

「音をひとつ鳴らすと、そのあとに、響きが豊かになる瞬間があるの。そしてその響きが流れ星のように降りてくるから、後ろに引いてるしっぽを耳でうまくつかまえて、次の音の音量や音質を決めるのよ。それが、モンボウが言っていた音楽の紡ぎ方なの」

あ、あの鐘のイメージ!・・・目からうろこ、であった。弾いたあとに響きが豊かになる?そしてそれをどのように聴くかで、最終的には音楽全体の印象が変わってしまうとは……。すべては「耳」が勝負なのだ。カルメンも、まるで全身が耳になったように、目をつぶって受講生が弾く音を聴き澄まし、これだ、という響きが奏でられるまで、「違う」「もう一度」「よく聴いて」・・・と根気よく繰り返していた。まるで、モンボウが彼女の姿を借りて、そこにいるかのように。

その数年後、カルメンは、87歳で亡くなられた。2007年、モンボウの死からちょうど20年後のことだった。



「私の目的は、もっとも研ぎ澄まされた内なる耳でも容易には出逢えないような響きを創り出すことでした」

—— フェデリコ・モンボウ

内なる耳。それは「心」や「本能」とも言えるもので、内なる耳を研ぎ澄ますとは「心を開くこと」「本能で感じ取ること」ではないだろうか、と思う。そしてモンボウは実際に、「容易には出逢えないような響きを創り出した」——というよりも、宇宙の神秘のなかにすでに息づいていた響きを「発見した」のだろう。その研ぎ澄まされた、内なる耳で。

だから、モンボウの音楽はとても自然。どんなにひそやかなときでも「開いて」いて、聴く人を受け入れてくれる音なのだ。

サティに似ているとか、サロン風の音楽とか、的外れな紹介も多いなか(表面的にサティに通じる曲があるのは確かだが)、今年没後25周年という節目を迎えたモンボウ。ぜひ、より多くの人に彼の「打ち明け話」を聴いてほしい、と願いながらも、いつまでも宝箱のなかでそつと光る存在でいてほしいな・・・という気持ちも、ほんのちょっとだけよぎったりする、ワガママな私なのだった。

文・写真 下山静香



下山静香 しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリッド、バルセロナで研鑽。スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。ラジオ、テレビ番組での演奏多数、これまでに4枚のCDをリリース。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリーと柔軟な感性をもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。さらに執筆・翻訳・講演・舞踊・トーク・・・とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。校訂・解説を担当した楽譜にグラナドス ピアノ作品集、アルベニス ピアノ作品集がある。桐朋学園大学非常勤講師。

Official Web Site サラバンダ <http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf>

裸足のピアニスト・下山静香のブログ <http://ameblo.jp/shizukamusica>

◆コンサート情報◆

下山静香<スペイン・ラテン室内楽シリーズ>第3回 (マネジメント:コンサートイマジン)

モンボウ 音と言葉〜響きの森へ(仮題)

12月13日(木) 19時開演 東京オペラシティ・リサイタルホール

日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介します。

1日24時間エネルギーを生み出すチューリップ



オールウェイズ・オン(常時稼働)をキャッチフレーズに、再生可能エネルギー業界に新時代をもたらす太陽エネルギーシステムが登場した。ソーラーシステムの研究センターとして欧州で最大、アンダルシア地方アルメリア県の太陽光プラットフォーム(PSA)にある会社アオラ・ソラール(Aora Solar)で開発された。

この太陽エネルギー新システムの名前は「Tulipán(チューリップ)」。チューリップの形をした35mの高さの塔で、昼夜、天気を問わず、24時間エネルギーを産出する機能が備わっている。この機能は、設置されたハイブリッドタービンによって三つの方法でエネルギーを供給する。一つは太陽光を使ったソーラーモード、二つ目は十分に太陽光を供給できない場合に他の燃料で補給するハイブリッドモード、最後の一つは、夜や曇りの日に燃料だけでエネルギーを供給する燃料モードだ。太陽光以外の燃料には、バイオガスやバイオディーゼル、天然ガスを使用することができる。チューリップモジュールは、電力だけでなく、170キロワットの熱エネルギーが生産可能で、乾燥、脱塩、吸収冷却、加熱など、熱を必要とするプロセスにも便利だ。100キロワットのチューリップモジュール一つは、約40軒の家庭や小さな工業団地をカバーできる。この最小単位を基本に、必要に応じて拡張できるのも強みで、遠隔地のエネルギー供給が難しい場所や、クリーンエネルギーの導入を決めた場合に気軽に設置できる。



石油高騰や環境問題でますます再生可能エネルギーに注目が集まる中、このチューリップモジュールが世界で花を咲かせるのも遠くはないだろう。

石油高騰や環境問題でますます再生可能エネルギーに注目が集まる中、このチューリップモジュールが世界で花を咲かせるのも遠くはないだろう。



スペイン情報誌

季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5



お問い合わせ先

日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa

www.camarajaponesa.es/jpn

camara@camarajaponesa.es

✉ Apartado 10124 - 28080 MADRID - SPAIN



INOCENCIA PERDIDA

Era poco más que una niña cuando fue presentada a la corte. Su dulce rostro, su cándida sonrisa dejaba traslucir la inocencia de su corazón, comparable solo con el de un niño recién llegado al mundo.

Su familia la dejó en manos de otros esperando que la prepararan adecuadamente para su vida futura, entre damas y caballeros de alta alcurnia. Nada sabía ella de engaños, conspiraciones o mentiras. Ni tan siquiera conocía el significado de tan peligrosas palabras.

La frescura y belleza de su pequeña y delgada persona fue un soplo de aire en la enrarecida atmósfera que presidía la suntuosa corte. Sus cabellos del color de las zanahorias entusiasmo a la reina. Se convirtió en la envidia de las damas de compañía y hechizó a los caballeros, que, ociosos, revoloteaban por las salas del castillo.

Recibió todos los halagos con natural modestia sin saber que tras las sonrisas era odiada por muchas, y muchos otros ambicionaban robarle aquella sublime inocencia.

De entre todos los galanes que elocuentes palabras le regalaban, uno consiguió sus atenciones. Era un mozo apuesto, de verbo fluido y modales exquisitos. La engatusó con tal facilidad que ni él se lo creía. Logró al poco robarle el corazón a la doncella que confiada, pensando que nada malo podría acaecerla entre gentes tan respetables, aceptó cumplir todos sus deseos. Incluso los más secretos, los que ninguna joven debía cumplir sin el consentimiento de familia e Iglesia.

Él la prometió un futuro juntos, esponsales, un hogar, comodidades, familia y eterna felicidad.

Un día, la muchacha recibió una nota de su puño y letra citándola fuera de la ciudad en una ajada mansión junto a unos campos de maíz. Allí había de aguardarle y desde allí a la iglesia se dirigirían, saliendo de esta como esposo y esposa.

Llegó al campo presurosa, con el corazón palpitante de dicha. Él nunca apareció, ya tenía de ella cuanto quería.

María Parra



María Parra マリア・パラ

Asturiana de 32 años, estudió ilustración pero desde la adolescencia se interesó por la lectura y recientemente, animada por una conocida que trabaja como correctora literaria, comenzó a escribir.

Sus escritos, cuya particularidad se basa en transmitir valores positivos, e intentan alejarse de las estructuras clásicas de la fantasía épica en la que prima más la violencia. Crea historias diferentes basadas en la colaboración entre los personajes y el aprecio por las cosas sencillas pero fundamentales para la felicidad.



日本でも大人気の
スペインサッカー公式グッズ登場

スペインサッカーチーム オフィシャルニットマフラー
価格 各 ¥2,730 - (税込) 【サイズ】140 X 20 cm



1. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラーA



2. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラーB



3. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラーC



4. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラーD



4. レアル・マドリード
オフィシャル
ニットマフラーA

スペインのシンボルでもある牛を、
カラフルでポップなモチーフにした
TOROエプロン (大人用)



1. TORO エプロン A
¥2,730 - (税込)



2. TORO エプロン B
¥2,730 - (税込)

スペインの代表料理のひとつ、
「パエリア」。
専用のパエリア鍋で、
ご家庭でもお楽しみ
ください♪



1. 鉄製パエリア鍋 28cm
2人用 ¥2,940 - (税込)
2. 鉄製パエリア鍋 32cm
4人用 ¥3,720 - (税込)
3. 鉄製パエリア鍋 36cm
6人用 ¥4,620 - (税込)

スペイン家庭料理の必需品 直火可能な耐熱陶器 カスエラ

スペインの味をご自宅でも!



1. カスエラ 14cm
¥1,050 - (税込)



2. カスエラ 17cm
¥1,470 - (税込)



3. カスエラ 19cm
¥1,680 - (税込)



4. カスエラ 21cm
¥2,100 - (税込)

お問合せ・ご注文は以下までお願いいたします:

有限会社ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F

TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 Email: info@adelanteshop.jp

マドリッドの夜(10)

2012年7月1日深夜、私はシャルル・ド・ゴール空港でその世紀のニュースを聞いた。その日、早くから出国手続きをしていた私は今日の決勝戦の結果が分かるのは成田に着いてからと諦めていた。予定通りエール・フランスのジャンボ機は午後1時30分シャルル・ド・ゴール空港を出発した。ドイツ、デンマークの上空を通過し、遙か南にはウクライナのキエフも視界にあるはずである。あと数時間で始まるヨーロッパサッカー選手権の決勝戦のことを気にしながらうとうとしていると、機内放送で「機体の調子が悪いので急遽パリに引き返します」とのことであった。

空港ではどこにもサッカーの試合をやっているTVはない(早々と準々決勝で負けたフランスにとってはもうどうでもよいことではある)。再出発の午後1時30分近くになって、知り合いになったフランス人に今日の試合の結果を知っているかと尋ねた。何と、「4:0でスペインが優勝した」という(当然といえば当然なのだが)、史上初の国際大会V3の達成である!!! 44年ぶりの優勝を目指したイタリアをのけ、スペインはドイツと並ぶ大会最多の3度目の優勝、そして史上初のヨーロッパ選手権連覇である!!!

私は準々決勝のフランス戦のときはブリュッセルに、準決勝のポルトガル戦のときはマドリッドにいたので十分にTV観戦できた。フランス戦ではスペイン側のパスの速さ、正確さ、力強さが遥かにフランスに勝っており力の差は明らかであった。変幻自在のパス力は正に世界一であろう。TVに映る画面には常にフランス側よりもスペイン側の人数のほうが多い。ひょっとしてスペイン側の人数は15名でやっているのではないかとさえ思われた。

一番苦戦したのはポルトガル戦である。勝手知ったるチーム同士であるし、ロナウドは元々スペインチーム所属である。死闘の一進一退の攻防が延長戦まで続いたがそれぞれ一歩も譲らず、結局ペナルティ戦(PK戦)となった。こうなるとスペイン人は強い。ずぶといのである。ポルトガルは対戦前から「世界の王者スペインに胸を借りる」とロナウドが謙虚にTVのインタビューで答えていたように、若干の気持ちの遅れがある。ポルトガル側は早くも2名が失敗、スペイン側は一人がキーパーに阻まれたが、あとの4人は余裕をもってゴールを揺らした。4人目のゴールが決まったとき、TVのカメラはロナウドが天を仰ぐ姿を大写しにした。翌日の新聞にはロナウドの無念のコメントが載っていた。「自分は5人目のキッカーだった。その仕事ができないまま敗れたのは誠に残念だった」

さて、今回のマドリッドの夜はサッカーの日の夜について述べる。レアル・マドリッド対バルセロナなどの大きな試合がある日は、カステジャーナ大通りをはさんでトーレ・デ・ヨーロッパの高層ビル斜め向かいにあるベルナベウ・サッカー場の周辺は大変である。マドリッドの街は夕方から通りという通りが駐車場になってしまう。特にベルナベウ・サッカー場周辺は数時間のバスと乗用車で埋め尽くされる。8時半ごろのキックオフの時間になるとマドリッドの巨大な都市が静寂に包まれる。殆ど人が動かなくなる。国民みなが自宅のTVかキャプテリアのTVに釘付けになる。以前、ヨーロッパ杯の決勝にスペインがからんだとき、私はたまたまカジノにいたがこのときもカジノの従業員もディーラーも仕事を放り出してTVに殺到していた。

今回のポルトガル戦の夜も国王一家、首相閣僚以下全国民がウクライナのドネツクでの試合をTVで観ていた。ちなみに9時過ぎにカステジャーナ大通りを歩いてみたが車の交通量もほとんどない。そういえば昼間、タクシーの運転手が「サッカーは好きだが、大試合のある日は誰も動かなくなるので商売あがったりで困る」とこぼしていた。ベルナベウ・サッカー場に



ポルトガル戦の翌日のベルナベウ・サッカー場風景

近づくと、大群衆がヒュンダイ自動車がスポンサーのTVの大画面に一喜一憂している。ホテルに帰ってまたTVのスイッチを入れると、スペインの国中の応援風景がライブでレポートされている。さきほどのベルナベウ・サッカー場前の大群衆も映し出されている。

翌日、王者スペインが(からくも)ポルトガルに勝利したことにとどのメディアも安堵の気持ちが現れていた。早速、ファン・カルロス1世もTV画面に現れ、「スペインチームは全員がよくやった。今のチームは非常に手強い。決勝戦も必ず優勝してくれると確信している」とコメントしていた。日本に帰ってきてインターネットでスペインの新聞に目を通すと、優勝を果たしてサルスエラ宮に招待されたスペインチームのビセンテ・デル・ボスケ監督と国王が和やかに会談している写真が載っていた。

今回のヨーロッパ杯のさなか、ブリュッセルでは真剣にEU首脳会議が進められていた。ポルトガル戦の直前には、ミニ首脳会議が開かれドイツ・フランス・イタリア・スペインの4首脳により経済危機回避のための根回しがなされた。この会議についてある口の悪い友人は、経済が大変な国ほどサッカーは強いのだと言っていた。そういえばギリシャもそこそこに戦ったし、ポルトガルはスペインと互角の戦いであつた。ドイツ、フランスはそれぞれイタリア、スペインに敗れた。優勝したスペインの場合はこれからそれなりに経済効果も期待できるであろう。サッカーの実力と経済の力との関連性は不明であるが、その友人はベルギー人であつた。ベルギーは今回は早々に予選落ちしており、大いにやっかみがあつたと思われる。

(つづく)

文・写真 桑原真夫



桑原真夫

くわばらまさお / Masao Kuwabara

詩人・エッセイスト 広島県鞆の浦出身、北大卒。

1977年よりほぼ毎年スペインを訪問。1984年から1989年まで銀行員としてマドリッドに駐在。ヨーロッパ在住約14年。

スペイン関係主要著書:『斜めから見たスペイン』(山手書房新社)、『それぞれのスペイン』[共編著](山手書房新社)、『スペインの素顔』(河出書房新社)、『スペインとは?』(沖積舎)、『ロサリア・デ・カストロという詩人』(沖積舎)、『我が母へ(ロサリア・デ・カストロ)』(沖積舎)、『ガリシアの歌・上巻及び下巻』(上下とも行路社)、『スペインのガリシアを知るための50章』(明石書店、共編著)、『花へ』[写真詩集](山手書房新社)他多数。『ロサリアの秘密の生涯』(ルース・ボソ・ガルサ詩集:土曜美術社出版販売)近刊の予定。『ジャック・ブレールという詩人』及び『フランソワーズ(遠藤周作のバリの許婚)』を出版予定。



新刊

ガリシアの歌 上・下

【著者】ロサリア・デ・カストロ[著]

桑原真夫[翻訳]

【出版社】行路社

【税込定価】2,520円(各巻)

【ISBN】9784875344193(上),

9784875344308(下)

ゲルニカ備忘録——その1

ヘルマン・ケステンの『ゲルニカの子供たち』について

ゲルニカの史上初の絨毯爆撃に遭遇した子供たちについて文学作品として初めて上梓されたのは、おそらくドイツの作家のヘルマン・ケステン(1900～96)の『ゲルニカの子供たち』(1939年。邦訳、鈴木武樹訳、白水社、1963年)であろう。

ケステンは1900年、オーストリア＝ハンガリー帝国のガリチア地方、現在はウクライナ共和国において、ユダヤ系ドイツ人の卵卸売業を営む裕福な家庭に生れる。幼児期にニュルンベルクに移ったことから、「ニュルンベルクの作家」と見なされている。作家としてデビューしたのは、27歳であった。だが、ケステンはユダヤ人であったために、33年にオランダのアムステルダムに亡命し、と同時にアレルト・デ・ランジュ社のドイツ語部門の編集担当者となる。その後、第2次世界大戦直前にニューヨークに移る。戦後、ローマ、バーゼルなどで暮らすが、亡命以降、2度とドイツに戻らなかった。彼こそ生涯にわたって寄り添なき亡命作家であったのだ。

さて、『ゲルニカの子供たち』は、ゲルニカ爆撃の翌年春、パリのセーヌの橋の上で、本書の主人公、年齢の割には慧眼なゲルニカ生まれの15歳のカルロス少年が、本書の語り手である「わたし」と出会うことから始まる。「わたし」はパリに亡命したドイツ人の「独裁者の対蹠人」を自認する「亡命文士」であり、カルロスからは「先生」と呼ばれている。「わたし」にとって、カルロスは、「近頃ヨーロッパの町々で幾千となく見かける、あの、スペインを逃れてきた子供たちの——わたしたちの世界の『善意』の証人たちの、ひとりであった」。この2人は、以前に数回会った顔なじみのようだ。チュイルリーの木立の間にあるカフェーに腰を下ろし、カルロスが内戦勃発直後から今までの想い出話を始める。

カルロスの兄弟は7人、父親は薬局を営んでいた。誰が見ても美しい女性という評判の母親と一緒にのどかで、たのしい家庭を築いていた。7月18日、つまり北アフリカのモロッコのスペイン陸軍駐屯地で軍事蜂起が勃発した翌日、スペイン本土の各地の陸軍駐屯地でこれに呼応して、軍事反乱が起こる。バスク地方も、県によっては叛乱軍側だったり、共和国側だったり、右往左往する、実に不安定な日々が続く。間もなく誰でも危惧している「内戦」が勃発する。(以下、引用文中の固有名詞は、若干、今日流に訂正しました。——川成)

サン・セバスティアンが無血で、反乱軍の指導者ベオルレギの手に落ちていました。三千人もの人たちが、モーロ人を怖がって逃げ出しました。あの連中は、女のひとの乳房や、子供の指や、男の人の頭を切り落としたのだそうです。避難民が大勢、ゲルニカへ入ってきました。その人たちは、子供や、ミシンや、ボール箱や、恐怖をうしろに引きずってきました。両親と別れ別れになった小さな子供や、取り乱した親が何人もいました。(中略)オリーブの木にぶら下げられた人もあるそうでした。バスクの自由を祈願した神父たちが七十人、撃ち殺されました。

こうした混乱が続いたものの、1936年10月1日、スペイン共和国政府は、バスクの長年の願望だった「バスク自治法」を公布し、バスク自治政府が成立する。その首班(レンガダリ、大統領)に若き弁護士のホセ・アントニオ・アギーレ(1904～60)が就任する。といっても、バスク側としては、「自治」を捨ててカトリックを選んでフランコ叛乱軍陣営に与るか、それともバスクの独立を容認する共和国側に付くか、二者択一を迫られた挙句の厳しい選択であったのだ。新設バスク自治政府は、外交権、貨幣発行権などを持たないものの、バスク独自の部

隊を編成することができた。

そして、1937年4月26日 —— 父を、4人の弟や姉を奪われたカルロスがゲルニカの爆撃をこう回顧する。

爆撃がすんで、もっとあとになってから、町の人たちがやってきて、ぼくを崩れた家から救い出してくれたとき——ぼく、このとおり、かすり傷ひとつしませんでした——、そのときぼくは、時計の鎖があったんで、これが父なんだなって、わかったのです。(中略)ぼくは父がほかの誰よりも好きでした。つまり、ぼくはひとりきり、父のそばに残ったのです。それから、死んだ人たちが——あたりまえですけど。この人たちは、起き上がって、母やパブロおじさんみたいに、ひびのいった壁と壁のあいだを抜けてまっしぐらに逃げていくことは、もうできなくなっていました。母は妹のモデスタを、おじは兄のホセをつれて、逃げてしまったのです。ふたりはぼくを忘れていきました。ぼくだって息子だし、甥なのに。ぼくは死んだ人たちのそばに残っていました。裁判所の人と、うちの助手と、パパのお気に入り、七つになるギルと、十七になるイノセンティアと、弟のエウヘニオとバルトロメオ——町の人たちはみんなひとやまに積みかさねました、パパの時計の鎖や、散らばっていた父のからだを集めた所へ。十字架は、ぼくがもらっておきました。それはシンチュウでできていて、ほんの少しねじまがっているだけでした。

カルロスは、愛する家族の無残にも爆殺されたバラバラの死体を確認してから、母とパブロ伯父、兄と妹を探し回る。そこにイエズス会のベニート神父と出会う。結局、ゲルニカでは母親たちと再会できず、あるいは彼らの死を確認することもできず、進駐するフランコ叛乱軍の追撃を恐れて、他のおおぜいのゲルニカの住民と同様に、神父と共にビルバオへ逃れることにする。バスク政府が急派したバスを使つての夜間ピストン運行であった。昼間はフランコ軍航空隊の襲撃的になるからだ。だが、やっとビルバオに着き、夢中になって家族の消息を探し回るが、何の手がかりも掴めず、やはりゲルニカに戻ることにする。すでに叛乱軍に制圧されているゲルニカに戻ることは極めて危険だと猛反対する神父に何とか頼み込んで同行してもらう。はたせるかな、密かにゲルニカにはいるやいなやフランコ叛乱軍にスパイ容疑で逮捕されてしまう。何ら取り調べも受けずに3日間も地下牢に押し込められ、しかるべき場所で尋問したいと、神父、カルロス、そして2人の女性がトラックに載せられる。連行された先は墓地であった。銃殺班の中年の男がカルロスの父親を知っていて、墓地の中に連れて行くときに、カルロスにぴったりと寄り添って「列の一番はしに並びな。最初の1発で倒れるんだぜ! 声はたてずに! あんたが倒れたら、もういちどあんたを撃つけど、声はたてるんじゃないよ!」と囁いたのだった。3人は銃殺された。九死に一生を得た彼は、ゲルニカから、ビルバオにたどり着き、国際赤十字の救援活動のおかげで8回もの空襲警報が鳴り響くあいだ、2300人もの子供たちと一緒にイギリス船ハバナ号に乗り込む。イギリスの軍艦とフランスの軍艦に厳重に護衛されたハバナ号は約9時間かけて、ラ・パリスに到着する。やがて、パリのノエル家に預けられ、ノエル夫妻から「ムッシュ・シャルル」と呼ばれる。

その1年後、カルロスを探し当てた、父親の兄であるパブロ伯父がノエル家に尋ねてくる。伯父によると、彼の母親、兄、妹の4人はゲルニカから脱出し、農夫に変装してピレネーを越えてフランス入りをしたのだった。父と結婚する前から、伯父と母が恋人同士だったのも大いにショッキングな事実だが、無惨にも亡くなった父や兄弟のことをあ

まり心にとめていない母のところに戻るのをきっぱりと拒否する。その伯父が、母を捨て、あろうことか、カルロスの世話をしてくれているノエル夫人と駆け落ちし、それを知って夫のノエル氏がピストル自殺を遂げる。

カルロスは、兄のホセと殴り合ったり、あるいは失恋したりして、セーヌに身を投じる。自殺を図ったのだった。幸い、釣り人に水中から救い出され病院に搬送され、一命を取り留めることができた。2週間余りの入院後に退院の見込みができ、毎日のようにカルロスの見舞いに来る「わたし」に向かってこう語る。

スペインの戦争はいつか終わるに違いないって、そうお考えですね？ もう二年の余もつづいています。スペイン人が死ぬだけ死んだら、たぶんいつか終わりますよ。そうしたら、ぼくらは国へ帰ります。死んだ人たちのところへ。そうして、それから？

(中略)

すべてよし、です！ じっさい、ぼくはほんのちっぽけな子供なんですからね。それに、人間たちからこんなめにあわされたのは、べつにぼくだけではない、って、思っています。それから、ぼくが自殺する気になったのは、じっさい、まちがいでした。でも、ぼくをようござんになってください！これからぼくはどうなるのでしょうか？

これが、本書の末部である。何ともいえぬカルロスの絶望感。大きな暗い不気味な戦雲が低く垂れこめてきているパリにおいて、カルロスがこれからどうなるのか、われわれ読者の想像力に委ねられている。カルロスやその家族のような、フランス警察当局から国外退去を求められている避難民たちの運命は、ファシズムの横暴を怯懦にも座視している民主主義勢力のあいだで翻弄されるのは火を見るより明らかであろう。事実、このことは、第2次世界大戦の緒戦段階で完膚なきまでに証明されたのである。

文 川成洋



ヘルマン・ケステン著
『ゲルニカの子供たち』
(1939年。邦訳、鈴木武樹訳、白水社、1963年)



川成洋

かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。
北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士過程修了。
社会学博士（一橋大学）。法政大学教授。
スペイン現代史学会会長。

主要著書

『青春のスペイン戦争』（中公新書）、『スペイン戦争—ジャック白井と国際旅団』（朝日選書）、『スペイン—未完の現代史』（彩流社）、『スペイン—歴史の旅』（人間社）ほか。



Yo hablo español*

[I speak spanish]*

[Ich spreche Spanisch]*

[Je parle espagnol]*

[Parlo spagnolo]*

[私はスペイン語を話す]*

[Eu vorbesc spaniola]*

[Ik spreek Spaans]*

¿hablas español?

スペイン語を話しますか。

spanish courses

Inturjoven



Programa CONSEJERÍA PARA LA IGUALDAD Y BIENESTAR SOCIAL

アンダルシアで語学留学

学んで楽しむ、最高のコンビネーション。

私共の営業部にお問い合わせください。: www.inturjovenspanishcourses.com

Andalucía

ALTO

Association of Language Travel Organizations

フラメンコスタジオ ルイサ
山内恵子フラメンコクラス

Estudio Luisa

優雅に、激しく、繊細に・・・
フラメンコの魅力を感じてほしい。

これからフラメンコを始めようとしている方。
興味はあるんだけど、踊れるかどうか心配な方。
以前習っていたけれど・・・ブランクのある方。
どうぞお気軽にお問い合わせください。

初級～プロまで養成
(直接指導)

生徒募集中!

無料体験レッスン実施中! ※予約制

ご予約・お問い合わせください
———
フラメンコスタジオ ルイサ
TEL./FAX.06-6561-0916
H.P. 090-3675-5718
afrwg309@oct.zaq.ne.jp

◆詳しくは <http://luisa.littlestar.jp> をご覧ください。

¡Vamos a bailar Flamenco!

Yuno Flamenco

徳田悠乃
Yuno Tokuda

Yunoフラメンコ教室
神戸校・姫路校

TEL:090-2701-7952 / 078-797-4303
E-mail: tacon.tacon@docomo.ne.jp

タパスからパエリアまで
大阪堺は深井の
スペイン料理のお店

Barrante
バルランテ

スペインコース・飲み放題付き 2時間 お一人様 ¥3,980

堺市中区深井沢町3126
TEL 072-278-1178
OPEN 17:00~25:00
毎週火曜日定休
<http://www.barrante-hukai.com>

スペイン語学習コース

スペイン語学習
+ 各種アクティビティ +
宿泊先

通年、年齢不問、レベ
ル別クラス (初級～上
級、DELEコース、個人
授業 他)

COLEGIO DELIBES

“VICENTE DEL BOSQUE”
プログラム

スペイン語学習 + サッ
カー + 宿泊先

7月～8月

colegiodelibes
Y TO... HABLA ESPAÑOL

Avda. Italia, 21
37007 Salamanca (España)
delibes@colegiodelibes.com
www.colegiodelibes.com

COLEGIO DE ESPAÑA
Since 1973

www.colegioespana.com | info@colegioespana.com

INTERNATIONAL SPANISH COURSES
Learn Spanish in Salamanca

- ・バラエティー豊かなコース
- ・一年を通して入学可能
- ・シニア歓迎
- ・講師向けトレーニング
- ・資格のあるネイティブ講師陣
- ・アクセスの良い好立地
- ・厳選された宿泊先を紹介

The best option to learn Spanish

CEELE **fedele**

Calle Compañía nº 65 - 37002 Salamanca - Spain
Tel. (+34) 923 21 47 88
Fax: (+34) 923 21 87 91

確かな技術と音楽する心を育てる

吉川二郎ギター教室

初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタルバ

花屋敷教室 (宝塚市)
天満橋教室 (大阪市)
東京教室 (月1回)
静岡教室 (月1回)
ギターサークルJIRO (富士市)

お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで
吉川二郎 **検索**



難破船の残した友情 DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD

監督・脚本: ゴンサロ・ロブレド
音楽: エルンスト・レイスグル・制作: 2009年、パチェ株式会社
ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕) NTSC
税込価格: 3,990円

沈んだ宝物はまだ御宿沖に眠っている?

1609年、スペインのガレオン船サンフランシスコ号は、フィリピンとメキシコを結ぶ貿易ルートを航海中、台風にあつて千葉県御宿沖で座礁。乗組員317人は、御宿の村人たちに助け出された。しかし、サンフランシスコ号が積んでいたはずの莫大な宝が引き上げられたという記録はない。はたして、御宿の海の底には、400年前の宝がまだ眠っているのだろうか?その可能性をあらゆる側面から探るドキュメンタリー。

絶賛好評発売中!
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!

ADELANTESHOP (アデランテショップ)
URL: www.adelanteshop.jp
TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

"Sal y Pimienta"
'Sabor de Pepa'



ACADEMIA DE FLAMENCO KEIKO ISHIKAWA

石川敬子フラメンコ教室

■ 忍ヶ丘 ■ 大正 ■ 長居 ■ 岐阜

TEL 072-877-6664 URL <http://www.estudiopepa.jp/>

ギター・
カンテクラスは
御大アレグレの
直接指導

！生徒募集中！

舞踊・カンテ・ギター・パルマと
フラメンコの全てをトップレベルの
指導を行う当教室で始めませんか！
全くの初心者の方から
プロ志望の方まで
入会随時受付中！

スペインタイルの総付け教室
& 手作りタイル販売

スペインタイルアート工房

Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)



大阪市西区南堀江 1-20-23-1003

Tel & Fax 06-4390-6545

Email: spaintile@japan.email.ne.jp

<http://homepage1.nifty.com/spaintile/>



スペイン菓子
サン・オノフレ

〒851-2106

長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1

TEL 095-860-8180 FAX 095-860-8181

スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを感じる語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

第三書房

基礎からしっかり学ぶ!スペイン語レッスン
話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう!

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員4名)

【一般コース 全12回/入門クラス】

月曜日 19:30-20:20 / 9月3日-11月19日

火曜日 18:30-19:20 / 9月4日-11月20日

木曜日 18:30-19:20 / 10月4日-12月20日

土曜日 10:30-11:20 / 10月6日-12月22日

入会金:15,750円 教材費:1,890円

受講料:42,840円(分納可)

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申込ください。

学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン(要予約)をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。

ADELANTEはスペイン語
スペイン語はADELANTE

【お問合せ】06-6346-5554

www.adelante.jp

フラメンコスタジオ ミゲロン
Flamenco Studio MIGUELON

現役で活躍中のプロが講師をするフラメンコ教室



●ダンス(バイレ)クラス
60分×4回 10,500円

●ギター・歌・パルマクラス
40分×3回 10,500円

生徒募集中!

●石橋スタジオ 池田市井口堂1-9-3 センチュリーショウエイVII1F

●梅田スタジオ 大阪市北区太融寺町8-10 梅田高速ビル604

※ダンス(バイレ)クラス 十三スタジオ(アルディエンテ)にて開講中!

Tel 072-760-4858

E-mail miguelon@nifty.com WEB <http://www.miguelon.jp/>

Spanish Communications

(株)スパニッシュコミュニケーションズ

www.spacom.jp

03-5709-9251

スペイン留学.com



「スペイン留学.com」で検索

El español abre las puertas
de tu futuro
スペイン語はあなたの未来を開く

スペインで専門分野を極める!
留学相談も受付中

レベルや
目的に
あわせて
8コース

スペイン書
会話コース

映画サロン

作文書簡
コース

DELE対策
コース

文法コース

ビジネス
スペイン語

翻訳書簡
コース

通訳養成
コース



日本スペイン文化経済交流センター エクステンション

www.extensionspainjapan.com

Tel. 06-6251-2686 exosaka@osb.att.ne.jp



スペイン語の本 & 雑貨

www.

adelante.jp
shop

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。送料全国一律280円
8,000円以上のお買い上げで送料無料!



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@adelante.jp

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分ですぐに自然なスペイン語をマスター
- ・定員6名までの少人数制グループレッスン
- ・ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ・振替ができるので忙しくても安心
- ・楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ・目的やペースに合わせて選べるコース
(一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・
スペイン語の本を読むコースetc.)

www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

無料体験レッスン随時実施中!
お気軽にお問い合わせください。



www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jp は
スペイン留学サポートのエキスパート。

【お問合せ】 TEL: 06-6346-5554 / email: info@spainryugaku.jp

スペイン & 中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- ・学校への出願サポート
- ・学生ビザ申請書記入のお手伝い
- ・留学費用の海外送金
- ・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- ・空港出迎えサービスなど、
各種オプションサービスの依頼代行

